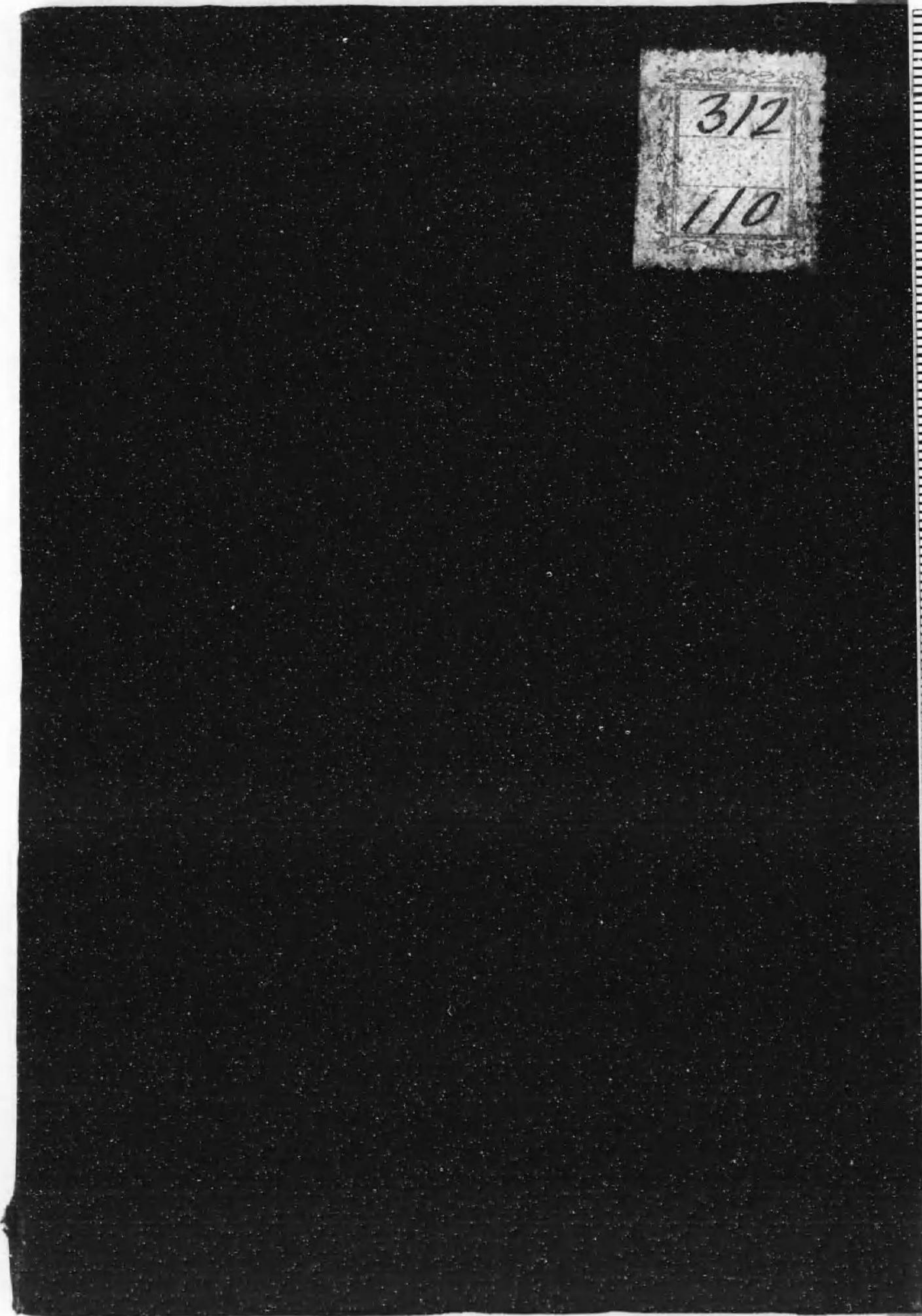


始



3/2  
1/0



時 220  
84



醫學博士 羽太銳治著

の 智 識

一書堂書店發行



## 偶像の破壊者として

### I

「メイ、待て〜。」

「何か用があるか。」

「何處から来た？ 何處に行く。」

「そんな事を答へる必要はない。」

「警官が職權を以て訊問するのだ。早く云へ。」

通行人と警官の間には尙二三の論争があつた。それは或る夜の一時過ぎである。

警官は、する中に男の懐にいきなり手を入れ様とした。男はそれを拒んだ。他人に懐中を弄ばれるよりはと云つて、自ら其の膨れた懐中から、メチニコフの「不老長壽論」を出して示した。

警官は横柄な態度で、男の住所氏名を訊れた。それから職業を訊れた。

「職業は醫者。」と男は答へた。

警官は洗ひ晒した浴衣に兵子帯をぐる／＼巻きにして居る男の様子をじろ／＼見詰めて、

「嘘を吐け、貴様の様な醫者があるか」と吐鳴つた。この通行人はドクトル羽太鋭治君である。

## II

それから幾日か経つて此話を聞いた時、私は其の警官の模倣な態度に公憤を感じ乍ら尙ほ「貴様のやうな醫者があるか」の言葉を可笑しく思つた。

ドクトル羽太君は、實際醫者らしくない醫者である。——醫者、辯護士、教師、商人、俳優と、夫れ／＼職業に依つて、其典型的の型がある事を承認する人は、私がこゝで云ふ「醫者らしい醫者」と云ふ言葉の意味を了解するのであらう。ドクトル羽太君は少く

も、さう云ふ類型的人ではない。

詳しく云ふならば、彼は生地きぢの儘をさらげ出して見せる人である。虚飾と云ふと、少し範圍を狭く限定し過ぎるから、飾り氣と云ふ言葉を用ゐるが、彼は此飾り氣さへも、生れて来る前に何處かに忘れて来たのであらう。

## III

神經質、粘液質と云ふやうに別ける見方。それからハムレット型、ドンキホーテ型と云ふやうに別ける見方。さう云ふ見方を別にして、他所行よそゆきの顔をする事じやうづの上手な人と、生地きぢ其儘をさらげ出して見せる人と、此の二つに別ける事が出来やう。世間には確かに此二つの種類の人がある。そしてかう云ふ見方をする時に、世間の凡ての人は、其類いっれかに屬する。

文明の度合は訓練の程度である。文明人とは長く訓練された人である。そしてよく訓練された人とは、他所行よそゆきの顔をする事じやうづの上手な人である。文明の世に虚飾の多い事實は、

此定理を裏書する。

ヘーゲルの云つた正反合の進化則を借用して来るやうな、廻り冗い、術學的な勢力を拂ふまでもなく、ルソーが「自然に歸れ」と呼んだのは近代文明に對する凡ての革命であつた事が首肯される。自然に歸れの叫びは、即ち他所行の顔を呪ふ聲である。技巧を用ゐるな、生地其儘をさらけ出して見せる。これがルソーの理想であつた。

醫學に於ても、近時此の理想に向つて新生面が開かれつゝある。そしてこれが醫學界の大きな、力強い、權威ある問題となりつゝある。

アドルフ・シャストは、其著書「自然に歸れ」で、かう云ふ意味を書いて居る。

「醫者の病氣を治療するには、患者の弱點を見出す事が一番である。病氣は人體の弱點を襲ふものである。動植物に於ても同様である。木でも勢のいゝのは、やどり木も生じなければ、敵も生えないが、勢が弱つて来れば其弱つて来た場所にやどり木が生えたり敵が生えたりする。敵菌が人間を襲ふも常に同一の理で、臓器の丈夫な處には、譬へ敵菌が入つても發育しないが、弱つて居る處に入れば、忽ち繁殖する。こゝに一個中隊の兵

が雨を冒して行軍するとして、それが悉く寒胃を引くかといふにけしてさうではない。或るものは腸加答兒を起し、或るものはリヨウマチスを起し、或る者は氣管支加答兒、或る者は又鼻加答兒に罹る。同じ原因であるのに、夫れ／＼別な病氣に取り附かれる。其人々の弱點を冒される證據である。故にまづ弱點を見出して、それを丈夫にせよ。これが生理的療法、即ち自然療法である。動物には一人の醫者もあるのではない。然し皆ひとりで治つて行く。熱あれば腹を冷たい地に附けて冷す。傷が出来れば、自分の舌で舐めずつて日光に晒す。渴すれば水を飲む。饑えれば草を食ふ。かくの如く、動物は皆自然的療法に依つて、其健康を保持して居る。人間も亦自然力に逆ふ事無ければ、病氣には罹らぬ。醫者の治療も自然力を尙ぶ事が最も必要である。」

此學說を實地に應用した試みをしたものでは、獨逸ユンケホルンに、自然療法所が出来て居る。そして、こゝでは空氣療法、日光浴、熱氣浴等の自然療養が、從來の藥物的療法に對する革命として、漸く其眞價を世間的に認められて來て居る。

私の話が少しくテテールに拂つた事をお詫びしなければならぬと、私は考へるが、私は自然が最後の勝利者であると云ふ事を、真書する必要を感じたからである。必ずしも生地其儘をさらけ出して見せる羽太君の爲めに、辯護の地位に立たうとのみする不醇な思想が、私の心の中に波打つて居る爲めではない。

## IV

兎も角も、生地其儘をさらけ出して居る事に於て、ドクトル羽太君は個性の明確な人である。其輪廓は太い、力のある線でかつきりと描き出されて居る。彼の日常起臥を目撃する時に、此の印象は愈々適確となる。此の意味に於て餘りに類型的な——それは他所<sup>よそ</sup>の顔を<sup>かほ</sup>する事の上手な類型を持つた——今の醫學界に、羽太君の存在する事は大いなる意義を刻み附けるものであると考へる。

彼が東奥の一巡査の子から身を起して今日を成したのは、實に此特性に基因して居る。彼がドクトル△△△△氏のやうな物質上の勝利者となり得ないのも、又此特性に基因し

て居る。彼が尿道消息子に就て、卓越した技術と、海嶽の如き自信とを持ち乍ら、尙且つ書籍製造家の境地に沈溺して居るのも、又此特性に基因して居る。

## V

私は勢ひ彼の特性を、私の見方に依つて説明する事の必要を感じる。

私は屢々彼と會ふが、彼の盛裝したのを見た事がない。無論、羽織を着たのを見た事がない。洋服をすら着たのを見た事がない。(一着の洋服を持つて居るか居ないかさへ、私には疑はしい)夏は洗ひざらしの浴衣一枚、冬は木綿織の袴か縮入、それに餘り新らしくない兵古帯をぐる／＼捲き附けて居る。——此の兵古帯をキチンと結んで居るのを、私は又見た事がない。

骨太く、肉豊かに、背も高いが、彼は少くも好男子と云ふ側の人ではない。其風采から云つて、先づ田舎の青年會の幹事と云ふ處である。肥料桶が似合ふと云つては、酷に過ぎるかも知れぬが、芋や大根を入れたホテ籠を擔ぐ位は、萬更不調和でも無さうだ

然し五分刻の頭、ギョロ／＼した眼、血色のいゝ顔色、ふし／＼ぶたつた太い手の指、大きな皮の厚い掌、それから與へられる印象は、力の印象である。イナージの印象である。

先頃私が會つた時、彼は毎夜一時頃まで讀書をして居つた。そして朝は六時から獨逸語の勉強に通つて居た。睡眠時間は三四時間きり取られないと云つて居たが、格別睡さうな顔もしないで、元氣のいゝ生々した話をして居た。

私が彼によく會ひ々々する處は、彼の書齋である。そこは學校の寄宿舎を思はせるやうな、極めて飾り氣の無い西洋室で、粗造の大きな書棚の上に、陰氣な装頓の醫書と、文藝方面の花やかな装頓を凝らした書物が雜然と積んである。此の書棚は殆んど行く度に新刊書が殖やされてある。メチニコフ、ウヰルヒヨ、ペーゼー、ギーラー等の醫學家と並んで、モーパッサンやストリンドヘルヒヤ、ドストエスキー、シヨール、ノルドウ等の文豪が見出される。彼は診察の間、一寸でも閑があると、此書齋に閉ぢ籠つて、これらの書を抄讀反覆するのが持病のやうになつて居る。

私の訪問の都度、彼は我々の家庭で用ゐる物よりは、五六倍もあると思はれる大きなビールのコップに、サイダーを一度に二本も次ぎ込んで、(此の大きなコップは一度にサイダーの二本位は優に入る)そして私に勧める。彼は自分でも同じやうに注いで、私が飲まうが飲むまいが關はず、先づ自らガブ／＼と飲む。獨逸語で云ふと、エツセンではなく、フレッセンである。所謂牛飲である。それから、私は煙草の灰が疊の上に落ちのたを氣にして(私が餘り氣にしては疊の方が却て恐縮するかとさへ思はれる程の疊ではあるが)手の指の先でチヨイ／＼灰を拾ひ取つて居る間に、彼は菓子皿の中を一時も早く空にしてはなれば、義務と責任が濟まないと思つて居るやうな調子で、菓子を△シヤ／＼掴まんで喰つて、自分の膝の前ばかりならまだいゝが、時には私の膝の前までも、煎餅やウエーハーの屑を、雪が降つたやうにそこから一面に散らす。

或る時、一人の青年が治療を受け乍ら、「痛いからもう止して下さい」と云つた。すると羽太君は俄かに顔色を替へて、吐鳴り出した。

「止せ? 止せとは何だ。僕は醫者としての權威を以て、君の治療をして居るのだ。君

のやうな義務觀念の無い人の治療はしたくない。とつとつ起きて歸れ。」

すると其青年は腹を立て、歸る處か、却つて、

「先生、餘り痛かつたので、ついあんな事を云ひましたが、私が悪かつたから、勘辨して下さい。」

と詫びた。そこで、羽太君も「さうか」と氣嫌を直して再び治療を續けた。

羽太君はこんな風によく慣る。直情徑行と云ふよりは、深い自信と、生一本の誠意と、犠牲的の努力が他人に理解されなかつたと思ふと、もう堪へる事が出来ないのであろう。それであるのに彼の處へ来る患者は、よく彼に依頼して、どんなに慣られても平氣で又やつて来る。他の醫者は——大學病院と權威のある一二の私立病院を除いては——悉く皆患者にお世辭を云つて、(私の云ふ他所行の顔を上手にして)一人でも多くの患者を取らうと腐心して居るし、又さう云ふ處へ行く患者は、一寸でも醫者が氣に障るやうな事を云つたら最後、「あの醫者怪しからん奴だ」と云つて、二度とは行かぬのが普通であるのに。羽太君の診察室に集つて来る患者の多くは大學生である、彼の診察室で話される言葉は、

日本語と、英語と、獨逸語と、佛蘭西語である。彼の診察室の話題は、文藝や哲學の話、科學の話、それから女の話、政治の話である。「僕の診察室は一の社交俱樂部だ」と彼自身云つて居る通り、確かに彼の診察室の小さな窓には、社會の波が或る時は高く、或る時は低く、間斷なく常に打ち寄せて来る。

## VI

美顔術と云ふ現代人に對する皮肉な諷刺的な職業を持つて居る××氏は、獨逸に着くとすぐ、三千枚の葉書を遙かに母國の知人に寄せた。三千枚の數に驚いた或る留學生が、「素的な數だね」と云ふと、「君この葉書一枚出しさへすりや、獨逸に三日居ても三年留學しても同じだよ」と云つて笑つた。そして歸朝後數年、今日尙ほ「院長渡歐の節」の文字が、氏の廣告文中に見出される。××氏の態度は飽までも皮肉である。内容の空虚な洋行や學位に對する冷笑とも見れば見られる。

實際私は柏林、若くは倫敦、巴里のスタンプを押させる爲めの留學や、院長渡歐の節、



の文字を並べる爲めの洋行が、世間にとの位多いかを想像する事が出来る。羽太君の外  
國留學が同じ目的であつたかどうか、私はまだ聞いて見る機會が無かつたが、彼が獨逸  
に留學中、前後通じて十枚の葉書を出したか出さぬか位に過ぎなかつたのは、貧乏で葉  
書を買ふ金さへ惜しまなければならなかつた爲めばかりだとも思はれない。

ドクトル△△△氏の例を又こゝに引く事は、氏の寛恕を請はれらぬと思ふが、  
某氏が往年將に洋行の途に上らんとするや、自ら朋友知己を勸誘して送別の宴を盛んな  
らしめ、其新橋を立つに當つては、樂隊附の行列を組んで、堂々と停車場迄練り込んだ  
ものである。そして歸朝の時も前日の如く樂隊附の行列に護られて、萬歳歡呼の裡に錦  
を母國に飾つた花やかにして壯んな歴史を持つて居る人である。

然るに羽太君に至つては、其洋行の門出を送るものは、只彼の母堂と最愛の夫人のみ。  
其歸朝に當つては、豫め何人にも通牒せず、突如として行李を運び来て、「今歸つたよ」と、  
最愛の夫人を驚かした。

彼の歸朝を知つた友人が、彼を訪うて歐洲文明化したハイカラ振りを見んとすれば、

何ぞ圖らん、蓬髮垢面、舊態依然として一個の變カラであつた。

「如何です、歐羅巴は。」

と客が問へば、彼は唯一語、

「澤庵漬が食べられないのに困りました。」と。

羽太君は澤庵漬を戀しつゝ、ドクトル試験を受けて來た人である。

## VII

羽太君が書籍製造家である事を、私は前に直言した。それは悲壯な事實である。消息子  
を持つ手を、屢々ペンに替へて、抑々彼は何をか求める。所謂無用の書を買つて、有用  
な書を購入の境地か。彼に於て書籍製造家たる事は、必ずしも不名譽とするものではな  
い事を私は信ずる。

今や彼は其幾次かの書籍製造を完成した。彼の研究の範圍から、縁遠い知識と経験を  
きり持たぬ私が、彼の著作に對して、徒らに空虚な贊辭を呈するよりも、寧ろ著者と未

見の讀者の間に立つて、著者を讀者の前に紹介する事は、私の義務であると考え。讀者が此贊しい紹介に依つて、彼に對する偶像崇拜が一朝にして破壊されやうとも、(恐らくはさうであらうが)或は又彼のために、進んで彼の靴の紐を結ばん事を渴仰し始めやうとも、それは固より私の關係した事ではない。恐らく羽太君も、私の微衷を諒するであらう。

東京朝日新聞編輯局にて

鈴木秋風

生殖器性の智識  
の  
研究  
目次

病的性慾篇

- 第一節 誤解されたる性慾……………一
- 第二節 性慾の意義……………四
- 第三節 性慾の二方面……………六
- 第四節 性慾教育の必要……………一

性慾の本義

- 第一節 性慾の發現狀態……………二〇
- 第二節 性交及び生殖……………二二
- 第三節 異性に對する快美感……………

原始的の性慾

第一節 自由なる性交……………二六

第二節 羞恥心の缺乏……………一八

第三節 裸體生活……………一九

第四節 妻妾の貸借交換……………二〇

賣淫論

第一節 賣淫の意義……………三

第二節 賣淫の種類……………三

第三節 賣淫の原理……………六

第四節 賣淫は絶滅せず……………六

第五節 賣淫に對する政策……………三〇

第六節 公娼と私娼……………三三

野合、姦通及蓄妾

第一節 野合の三種類……………四一

第二節 姦通……………四三

第三節 妾及蓄妾……………四四

婚姻

第一節 婚姻と賣淫……………四四

第二節 原始的婚姻……………四六

第三節 多妻式及多夫式……………四八

第四節 結婚の要件……………五〇

第七節 日本賣淫史 (一)……………五五

第八節 日本賣淫史 (二)……………五五

第九節 日本賣淫史 (三)……………五九

第五節 結婚と年齢……………五二

第六節 結婚と貞操……………五三

男女貞操問題……………五四

性慾と戀愛

第一節 性慾の美的發露……………五七

第二節 戀愛の肉的和精神的……………五九

第三節 戀愛に關する思想……………六〇

第四節 戀愛思想の批評……………六三

第五節 戀愛と生活……………六四

第六節 愛情の性質及び其の進化……………六六

病的性慾

第一節 生物學的變化……………六八

第二節 同性間性慾……………七〇

第三節 女性間の同性の愛……………七二

第四節 同性の愛を好む婦人の型……………七五

第五節 女同志の情死……………七六

第六節 男性間の愛……………八〇

第七節 極端なる同性の愛……………八三

第八節 性的體部狂崇……………八五

第九節 性的庶物狂崇……………八六

第十節 半陰陽者……………八八

第十一節 サヂスマス……………九〇

第十二節 マソヒスマス……………九三

第十三節 陰部露出症……………九五

第十四節 獸姦及偶像姦……………九六

性的特徴論

第十五節 自演……………九六

第一節 身體の成長……………九九

第二節 骨盤……………一〇一

第三節 頭部……………一〇四

第四節 頭蓋の容量……………一〇六

第五節 腦……………一〇九

性慾と内分泌……………一〇九

生殖器及泌尿器

第一節 總論……………一〇九

泌尿器及び生殖器の胎生的發育

第一節 泌尿器の發育……………一一三

生殖器の發育

第一節 内生殖器の發育……………一一三

第二節 外生殖器の發育……………一一四

泌尿器

第一節 總論……………一一五

第二節 腎臟……………一二六

第三節 輸尿管の構造及び機能……………一二三

第四節 膀胱の解剖及び其機能……………一二三

第五節 尿道の解剖及び其機能……………一二六

第一 男子の尿道……………一二六

第二 女子の尿道……………一二七

生殖器

(一) 男子生殖器……………一二六

第一節 概論……………一三八

第二節 蕃殖器と交接器……………一二九

第三節 陰阜……………一三一

第四節 陰莖(外生殖器)……………一三二

(イ) 陰莖の形と大きさと構造……………一三一

(ロ) 陰莖の構造……………一三二

(ハ) 包莖の害……………一三三

(ニ) 包莖手術……………一三三

(ホ) 陰莖皮膚の構造……………一三三

(ヘ) 陰莖の脂垢……………一三四

(ト) 尿道海綿體……………一三四

(チ) 陰莖海綿體……………一三四

(リ) 陰莖の區分……………一三五

(ヌ) 陰莖の大き……………一三六

(ル) 陰莖の機能……………一三七

(ヲ) 陰莖勃起及び勃起の太さ……………一三八

(ヱ) 淫慾、勃起と腦の關係……………一三九

(カ) 我國人の春機發動期……………一三九

(ヨ) 腦中樞と勃起神經及生殖腺の機能……………一四〇

(タ) 春畫、小説、淫猥なる談話、臭ひ、觸覺等と性慾との關係……………一四一

(レ) 催春劑……………一四一

(ソ) 陰莖勃起の理由……………一四二

第三節 陰莖の種々なる形狀……………一四三

(イ) 陰莖缺損及び畸形……………一四四

(ロ) 陰莖の繫帶が陰莖に癒着せる畸形……………一四四

(ハ) 陰莖の曲りたるもの……………一四五

(ニ) 包皮の繫帯短き害及療法……………一四六

(ホ) 異状尿道……………一四六

(一)下裂尿道 (二)上裂尿道

第一節 男子の内生殖器……………一四七

第一學 丸……………一四七

(イ) 男子は終生生殖機能を營み得……………一四八

(ロ) 精液の製造……………一四九

(ハ) 構造……………一五一

(ニ) 血管……………一五二

第二節 各交接器機能……………一五三

第三節 陰囊……………一五四

第一陰囊の弛緩と健康との關係……………一五五

第四節 副睪丸……………一五六

第五節 輸精管……………一五七

第六節 精囊……………一五七

第七節 射精管……………一五八

第八節 精液の成分……………一五八

第九節 精蟲……………一六〇

第十節 精蟲と卵子との關係……………一六一

第十一節 精蟲に關する憶説……………一六一

第十二節 精蟲、精囊、攝護腺との關係……………一六三

第十三節 精蟲の毒物……………一六三

第十四節 アルコールと畸形兒……………一六四

第十五節 精蟲發生と消滅……………一六五

第十六節 攝護腺……………一六五

第十七節 コーペル氏腺……………一六六

女子の生殖器.....一七〇

第一節 大陰唇.....一七〇

第二節 小陰唇の位置形状.....一七五

第三節 陰核の位置と大きさ.....一七八

第四節 膣(陰門).....一八二

第五節 處女膜.....一八六

第六節 婦人乳房.....一八八

花柳病篇

第一節 卵巢.....一八九

第二節 輸卵管.....二〇一

第三節 子宮.....二〇六

花柳病蔓延の状況.....二二五

歐米各都市に於る花柳病豫防の状況に就て.....二三〇

花柳病の現況.....二四四

軟性下疳.....二六八

第一 軟性下疳.....二六八

第二 横 痃.....二七〇

第三 埋疽性下疳.....二七一

微毒

第一節 原因と傳播.....二七三

第二節 傳染徑路.....二七三

第三節 微毒の症状.....二八二

甲 第一期微毒.....二八一

乙 第二期微毒.....二八三



微毒各論

丙 第三期微毒……………二六九

一 淋巴管、淋巴腺の微毒……………二六九  
症候、療法

二 硬性下疳……………二九一  
症候、療法

三 骨の微毒……………二九二  
症候、療法

四 胃の微毒……………二九三

五 腸の微毒……………二九四

六 鼻の微毒……………二九五

七 眼の微毒……………二九六

八 脳と脊髄の微毒……………二九七

微毒血清診断法

A 脳護膜腫……………二九八

B 脊髄癆……………二九九

九 末梢神経の疾患……………三〇〇

十 麻痺症……………三〇〇

十一 微毒性神経衰弱症……………三〇一

十二 微毒性癡呆……………三〇二

十三 奔馳性微毒……………三〇三

第四節 ワッセルマン氏法……………三〇八

第五節 ルエチン反應……………三二二

(イ)丘疹型(ロ)膿疱疹型(ハ)遅发型

第六節 微毒豫防法……………三二五

第七節 微毒の攝生……………三二六

第八節 黴毒の療法……………三三三

甲 水銀劑……………三三三

乙 沃度劑……………三三〇

丙 サルヴァルサン注射療法(六〇六號)……………三三一

(一) サルヴァルサン療法の起源……………三三一

(二) その毒力と効力……………三三六

(三) サルヴァルサンの適應症……………三三〇

(四) サルヴァルサン注射の副作用……………三四一

(五) 靜脈注射後の攝生……………三四四

(六) 最近黴毒療法の定義……………三四五

最も進歩したる確實なる療法……………三四七

六〇六號注射器に就て……………三四八

淋疾

第一節 尿道の解剖及組織……………三五四

第二節 急性淋疾の病理解剖……………三五八

第三節 急性淋病の種類及症候……………三五九

第一項 急性尿道炎……………三六〇

第二項 急性後部尿道炎……………三六六

第三項 前後部尿道炎の豫防……………三六七

第四節 慢性淋毒尿道炎……………三六七

第一項 慢性前部尿道炎……………三六八

第二項 慢性後部尿道炎……………三六九

第三項 慢性淋疾の研究……………三七一

第五節 類症鑑別……………三七六

第一項 精液漏……………三七六

第二項 淋病傳染……………三七七

第三項 二器檢尿法……………三七七

第六節 淋疾講話……………三七九

一 淋病の原因……………三七九

二 淋病傳染の次第……………三八〇

三 攝生を怠りし結果……………三八一

四 慢性と急性との區別……………三八四

五 淋病と家庭……………三八五

六 淋毒と眼の關係……………三八五

第七節 淋病の豫後……………三九一

第一項 急性淋病の豫後……………三九一

第二項 慢性淋の豫後……………三九三

第八節 淋病の豫防法……………三九四

第九節 淋病の攝生法……………三九八

第十節 療法……………四〇四

性の智識

第一項 頓挫療法……………四一四

第二項 對症療法……………四一五

第三項 内服薬に依る治療法……………四二二

第四項 外用療法(尿道注入)……………四二四

第一 概論……………四二四

第二 尿道注射の注意……………四二五

第三 注射療法の方法……………四二八

前部尿道の注射方法……………四二八

第四 尿道注入薬……………四三三

乙 殺菌劑……………四三三

第五項 急性後部尿道炎の療法……………四三六

第六項 慢性淋疾の療法……………四四四

甲 攝生及内服療法……………四四四

尿道狭窄

乙 局所療法……………四四六

第七項 特種療法……………四五六

(一) 加温療法……………四五六

(二) ワクチン療法……………四五八

(イ) 要約(自家ワクチンに就て)……………四五九

(ロ) 成蹟……………四六〇

(ハ) 結論……………四六七

予の研究せる成蹟……………四六八

第一項 原因……………四六九

第二項 狭窄の部位……………四六九

第三項 症候……………四七〇

第四項 續發症……………四七一

膀胱加答兒

第五項 豫後、療法……………四七二

第一項 原因……………四七二

第二項 症候……………四七三

攝護腺炎

第一節 急性攝護腺炎……………四七七

第二節 慢性攝護腺炎……………四八〇

第三節 慢性淋疾と攝護腺炎との關係……………四八〇

精囊炎及び精系炎の原因……………四八二

尿道周圍及海綿體の炎症……………四八二

療法……………四八四

直腸淋疾……………四八四

第一 原因症候……………四八五

第二 療法……………四八六

淋毒性副睪丸炎……………四八六

第一 原因……………四八六

第二 療法……………四八八

慢性淋は根治せずや……………四八九

第一項 急性淋と慢性淋……………四八九

第二項 慢性淋の區別……………四九〇

第三項 慢性淋に特效薬無し……………四九〇

第四項 偽醫者と非醫者……………四九一

第五項 淋病の病變……………四九二

第六項 尿道浸潤の區別……………四九三

第七項 淋疾の根治せぬ……………四九三

第八項 慢性淋病根療法……………四九四

第九項 醫師の花柳病の治識……………四九五

慢性淋慘害(其の一)……………四九六

同 上(其の二)……………四九八

男子生殖器の機能障害……………五〇三

第一 總論……………五〇三

第二 手淫……………五〇四

第三 陰萎……………五〇六

後部尿道特に尿道精阜の疾患に因る泌尿生殖器機能障害に就て……………五二一

陰萎患者の告白……………五二七

青年痼疾の豫防……………五三四

春宵一刻千金の夢……………五三六

情慾性神經衰弱

第一 生殖器障碍……………五三七

精液減損

第二 房事過度……………五三七

第三 避妊の意義……………五三七

第四 腦神經症狀……………五三九

第五 脊髓神經症狀……………五三九

第六 局處性症狀……………五三九

第七 血行障害……………五四〇

第八 胃腸障害……………五四〇

第九 原因調査……………五四二

第一節 遺精……………五四六

(一) 生理的遺精 (二) 病的遺精

症候 豫後 療法……………五四七

第二節 精液缺乏症……………五四九

泌尿器及生殖器の外科的疾患

第三節 精蟲缺如症……………五〇〇

第四節 早漏……………五五一

第五節 生殖器性神經衰弱……………五五二

第六節 ムクレイン酸療法……………五五三

第七節 神經衰弱症に對するムクレイン酸應用に就て……………五五六

第一節 腎臟結核症……………五六五

第二節 睪丸の疾患……………五九〇

第一 睪丸の先天的畸形……………五九〇

第二 睪丸停滯……………五九〇

第三 先天性陰囊水腫……………五九二

第四 睪丸肉腫……………五九二

第五 睪丸癌腫……………五九三

第六 睪丸及副睪丸の結核..... 五九四

第七 睪丸微毒..... 五九五

第二節 陰囊の部.....

第一 急性陰囊水腫..... 五九六

第二 慢性陰囊水腫..... 五九七

第三 陰囊乳糜腫..... 五九九

第四 陰囊血腫..... 五九九

第五 精液腫..... 六〇〇

第六 精系水腫..... 六〇〇

第七 精靜脈瘤..... 六〇一

第三節 陰囊の疾患.....

第一 陰莖の畸形..... 六〇一

(一) 包莖..... 六〇一

(二) 包莖稍頓..... 六〇二

第二 陰莖の炎症..... 六〇三

(一) 龜頭包皮炎症..... 六〇三

(二) 海綿體炎..... 六〇四

    A 限局性海綿體炎..... 六〇七

    B 瀰漫性海綿體炎..... 六〇八

第四節 陰莖の腫瘍..... 六〇八

第一 尖圭コンナローマ..... 六〇九

第二 陰莖癌..... 六一〇

第五節 尿道の部..... 六一一

第一 尿道先天性畸形..... 六一一

(一) 尿道缺損..... 六一一

(二) 尿道閉鎖..... 六一二

- (三) 先天性狹窄.....六二四
- (四) 尿道破裂.....六二五
- 第二 尿道創傷.....六二六
  - (一) 尿道挫傷.....六二六
  - (二) 刺創.....六二七
  - (三) 切創.....六二七
  - (四) 裂創.....六二七
  - (五) 挫創.....六二八
- 第三 尿道異物.....六二八
- 第四 尿道結石.....六二九
- 第五 尿道新生物.....六二九

妊娠及分娩論

- 第一節 卵子及卵子の妊娠條件.....六三〇

- 第一 卵子.....六三〇
- 第二 懷孕作用.....六三三
- 第三 懷孕と其條件.....六三六
- 第二節 妊娠の理由及び期日.....六三九
  - 第一 妊娠する理由.....六三九
  - 第二 妊娠すべき時期と妊娠せざる時期.....六四三
  - 第三節 月經(さばり、めぐり、つきやく).....六四四
    - 第一 月經の原因.....六四四
    - 第二 月經の不順.....六四五
    - 第三 月經と全身との關係.....六四六
    - 第四 月經の時間と經血の分量.....六四七
    - 第五 月經の開始と閉止.....六四八
  - (イ) 月經開始.....六四九



(ロ) 月經開始と文明及貧富……………六三六

第六 月經閉止と生活との關係……………六四一

第七 都鄙と經閉……………六四三

第八 月經在續年間及月經閉止……………六四四

第九 月經不順……………六四四

(イ) 無月經……………六四四

(ロ) 月經過多及持長……………六四七

(ハ) 月經痛……………六四七

第十 月經期の攝生……………六四八

第四節 人工妊娠の方法……………六五一

第五節 初回の交媾と妊娠……………六五二

第六節 避妊娠……………六五三

第七節 妊娠の定義……………六五六

第八節 妊娠の持續……………六五六

第九節 アアアルハンデル氏の生物的妊娠診斷……………六五七

第十節 卵膜……………六六三

第十一節 胎盤(のち産)……………六六三

第十二節 臍帶……………六六四

第十三節 羊水(胎水)……………六六四

第十四節 分娩の種類……………六六五

第十五節 女子の不妊症……………六六六

第十六節 子宮性不妊……………六六六

第十七節 卵巢不全と不妊……………六六七

第十八節 淋病と不妊……………六六七

第十九節 黴毒と不妊……………六六八

第二十節 男女不妊の原因……………六六八

第卅四節 妊娠及分娩起算表……………六八三

第卅五節 妊娠及産科診断……………六八六

第一 外診……………六八六

第二 腹部の觸診……………六八七

第三 聽診……………六八七

第四 分娩時に於ける外診及内診……………六八八

第一項 外診……………六八八

第二項 内診……………六九〇

第卅六節 妊娠の診断……………六九一

第卅七節 初妊と經妊……………六九一

第卅八節 妊娠時期の診断……………六九二

第卅九節 妊娠の攝生……………六九三

第四十節 分娩生理……………六九四

第廿一節 妊娠の成立……………六七二

第廿二節 閉經と妊娠……………六七三

第廿三節 分娩産褥……………六七三

第廿四節 分娩時の苦痛……………六七四

第廿五節 坐産と臥産……………六七五

第廿六節 分娩時の負傷……………六七五

第廿七節 分娩時の子宮……………六七六

第廿八節 胎兒……………六七六

第廿九節 妊娠各月に於ける胎兒……………六七八

第卅節 生熟兒……………六八〇

第卅一節 双胎……………六八〇

第卅二節 妊娠中母體の變化……………六八二

第卅三節 妊娠の終期計算法……………六八三

婦人病篇

女と淋疾.....七〇一

第一 會陰保護.....六九四

第二 平常の分娩經過.....六九五

第三 産室及産位.....六九五

第四 産科消毒法.....六九六

第五 手指消毒法.....六九六

第六 生殖器消毒法.....六九六

第七 器械消毒法.....六九七

第四十一節 産褥生理.....六九七

第一 産婦分娩後の攝生.....六九八

第二 産兒保護.....六九八

第三 産褥の養生.....六九九

性の智識

淋毒性疾患.....七〇一

第一節 淋毒性膣炎.....七〇三

婦人蕃殖器の淋毒性炎症.....七〇五

第一節 急性子宮實質炎.....七〇五

第二節 慢性子宮實質炎.....七〇六

第三節 淋毒性子宮内膜炎.....七〇八

(イ) 急性子宮内膜炎.....七〇八

(ロ) 慢性子宮内膜炎.....七〇九

(ハ) 子宮頸内膜炎.....七〇三

第四節 淋毒性卵巣炎.....七〇七

第五節 淋毒性喇叭管炎.....七〇九

第六節 子宮外膜炎.....七一一

第七節 子宮内膜炎.....七一二

婦人生殖器に於ける腫瘍

- 第一節 子宮筋腫……………七三一
- 第二節 子宮癌……………七三五
- 第三節 悪性脈絡膜上皮腫……………七四九
- 第四節 子宮肉腫……………七五〇
- 第五節 卵巢の喪腫性新生物……………七五二

不妊症の研究

- 第一節 女子不妊と其病的關係……………七五三
- 第二節 男子的不妊症と病原的調査……………七五四
- 第三節 受胎と不妊に於ける病氣發生の研究……………七五六

女子と手淫

- 第一 手淫の害……………七六八
- 第二 女子の手淫より來る主なる疾病……………七六九

女子交接不能

- 第一節 陰性交接不能症……………七七一
- 第二節 子宮性交接不能症……………七七一
- 第三節 女子の情慾欠乏症……………七七一
- 第四節 陰瘻……………七七四
- 第五節 生殖器閉鎖……………七七六
- 第六節 生殖器管の重複に基因する閉塞……………七八〇

子宮の病的位置

- 第一節 子宮の正常位置……………七八二
- 第二節 子宮前屈……………七八三
- 第三節 子宮前轉……………七八四
- 第四節 子宮後轉……………七八五
- 第五節 子宮後屈……………七八六

第六節 子宮と膈の不能及脱出……………七六八

第七節 子宮内腫……………七九二

婦人病と専門醫の選擇法……………七五二

目次終

の生殖器性の智識

ドクトル  
メザチーネ 羽太銳治纂著

病的性慾篇

予は今茲に病的性慾を記載するに當り、順序として一般性慾より初め、賣淫、婚姻、戀愛等を論じ、更に筆を進めて病的性慾に到らん。

第一節 誤解されたる性慾

春、花咲く野邊を逍遙すれば末しき花の香に憧憬れし胡蝶の、風に翻翻として舞ふを見るべし。猶ほも是等の胡蝶の爲す様を見れば、彼等は或は高く空に舞ひ

又は低く花に止まりて其香をなつかしみ、其の甘き蜜を吸ひなどする外に、彼等の雌と雄とが花咲く中を追ひつゝ、追はれつゝあるをも見るなるべし。

總べて男女（雌雄）兩性は、本能的に相近づかんとしつゝあるものなり。而して本能とは天性とも、又本性とも云ひ、天賦自然に固有せる能力にして、教育、經驗等に依りて得らるゝものにあらず。例へば初生兒の乳を吸ひ、飢ゆる時泣くが如き、何等の教育、經驗に依りて得たるにあらず、是れ全く生れながらに有する所のもの、即ち天賦固有の能力なりと謂ふべし。更に男女兩性の相近づかんとする本能に就いて述べれば、男女共妙齡に達すれば自ら春情を解して、異性に對する戀情を發す、斯くの如く男女兩性が有する本能を性慾と云ふ。

從來、性慾に關する事は「憚る可き事なり」として、是等の事を口にし或は筆にするには士君子の爲す可き事にあらずと爲せり。勿論差したる必要もなきに是等の事を漫りに喋々するは耻づべき事なれど、是れを絶対に秘密にするは、從來

の解釋の誤れる所あればなり。

從來世人は性慾に就いて誤解せる所多し、而して此の誤解よりして「憚るべき事」と爲して、秘密主義に附せり。去れども斯る秘密主義は、決して可なるものにあらず。若し此の秘密主義にて性慾を隠蔽する時は、却つて性慾道德並びに生殖器の衛生を等閑に附し、不自然に性慾を満たして濫行となり、荒淫となり、個人的にしては遂に其身を亡ぼすに至り、社會的にしては、其害延て風俗を紊し、安寧を妨げ且つは國民の體質を劣等ならしむるに至る等、其弊害昭々として明かなり。

是等の害を除かんには、必ず性慾の研究に俟たざるべからず。茲に於て學者は眞摯に性慾を研究し、着實に思索を練りつゝあるなり。性慾に關する眞摯なる研究は、歐米（殊に獨逸）にては大に進歩し、醫學者、博物學者のみならず、教育家、宗教家、文藝家、道德家及び社會政策學者等に至るまで、熱心に是が研究に

從事するに至れり。我國に於ても此問題は近來識者の注意を惹き、學者は研究に眞摯なる態度を用ゐ、世人も亦眞面目に其説を聽かんと欲するに至れるは喜ぶべき現象にして、久しき誤解も遠からずして解かるゝに至るべしと信ず。

## 第二節 性慾の意義

性慾とは前述せるが如く、男女兩性が有する本能にして、其の結果として子孫を生ず。去れども子孫を得る事は必然的の手段にして、性慾は必ずしも子孫を得る爲めの本能にはあらず。多くの人は性慾を満足せしむる事は、直ちに子孫を得る爲めなりと考へ居れども、こは性慾の意義、及び性質を無視したる上、本質と結果とを混同したる所のものありとす。

要するに性慾は、自己の快樂を満足せしめんとするに外ならず。假に茲に生産を目的とする人あらんとせん、此人若し性慾の念高潮に達せんか、其の時尙子孫

の事を思ひつゝあるものありや、恐らく斯くの如き人は無かるべし。少しく具體的に述べれば、若し或る女子にして生殖器に異狀ありて、到底子孫を得る事得ざる時に於て、其婦人は夫に對して全然性慾の關係を斷つべきや否、假令子女を得るの望なき男女にても、其自然性に反抗するは出来難き事なるべし。

又茲に戀愛なるものあり、元來日本に於ては戀愛てふ言葉には男女兩性間に於ける性的關係を意味したる所の者にして、其根本に於いて性慾的内容に立脚したるものなり、即ち性慾の美的發露を戀愛と稱する。

斯くの如く此内在せる自然性たる性慾は、男女兩性の必然的の慾求なるを以て戀愛なる文學を如何に美はしく裝飾すとも、其の目的は要するに性慾の満足を得んが爲めに、精神的に異性に對して愛情を喚起して、肉の徑路に入らんとする前提なりとす。

### 第三節 性慾の二方面

人類の光輝ある進化の源は、性慾の結果に依るものにして、若し性慾なかりせば、人類のみならず有機體のすべてが、原始的の狀態に止まりて、毫も化育進歩することなかりしなるべし。されば性慾によりて人類の文明は導かれて發達し來れるものも、謂ふを得べし。然れども性慾の濫行は人類の徳を壞り、個人的にも社會的のも恐るべき害毒を來らす事は、既に述べたるが如し。又文明の發展に伴ひて、犯罪者の益々増加するは、畢竟は性慾の產物にして、其の罪は性慾を濫行するにあり。

一面より見れば性慾は、實に崇高、純美の極にして、人を活かし、且つ働かしむる一大動機あることは、英國の詩人バイロン氏も言へる所なれども、又他の一面より見れば、誠に劣惡、卑賤言ふに堪えざる所のものともなる。故に古來大聖

碩儒は、性慾に對して反復教誨し、性慾の濫行を防ぐ事に力めたるなり。

### 第四節 性慾教育の必要

吾人が性慾學の新學說を基礎として、著述に筆を染むるに當り、其の何が故に斯くの如き著述をなすやを闡明せざる可からず。そは前數節に亘りて述べたる所を玩味せば、吾人の意のある所を捕捉するに難からざるべし。

古來の大聖碩儒が教誨せる所のものは、多く之を人間の劣情なりと解釋し、殊に佛教の如きに於ては腦髓の中に性慾の念を萌す事をすら、煩惱罪惡なりとなせり。從來は斯くの如く性慾を覆には無智の幕を以てし、而して其の純潔と、羞耻的感情とを維持し得べき唯一の武器と思惟せり。勿論當時の生活及び人生に對する生活上の要求は、今日とは全然趣きを異にするが故に、一面より考へれば蓋し此の消極的方法も、部分的には是認せざる可からざるものあり。



性慾は前にも云へる如く進化の衝動たると共に、自己の威力を益々盛ならしめんとして、有生物に一種の甘美なる快樂を與へて誘惑しつゝあり。人類社會の進歩發展も性慾の衝動に依る事多きは争ふべからざる事實なれど、又半面より窺ふ時は此の衝動の強くなれば強くなる丈け、即ち人類社會の進歩あれば進歩する丈け性慾に依りて生ずる弊害又多く同一の性慾より起れる作用にして、一面に於ては人類社會の進歩の衝動にあり。他の一面に於ては人類社會の幸福を破壊せんとする一種の勢力をなすが如き、二個の背馳せる作用となりて盛に闘争す。

人類社會の幸福を破壊せんとする勢力とは何ぞ、即ち花柳病の傳播是れなり。實に文明は花柳病の傳播と直接の關係を有するものにして同時に亦主従の關係を有するものなり。故に世人は文明の進歩と共に、又極力花柳病の傳播を豫防せざるべからざるは、社會の利害關係上等閑に附し得ざる事と謂ふべし。今日に於ける花柳病蔓延の状態は、世人の思惟せるよりも其程度甚だしく、實に人類

社會の幸福は是が爲めに破壊せられんとしつゝあるなり。殊に花柳病の禍害は疾病直接に人類の幸福を奪はんとするのみならず。或は風規を紊し、或は犯罪となりて現はれ、猶其の他諸般の現象となりて人類社會の秩序を紊さんとしつゝあるなり。

斯くの如き状態にあるの今日、徒らに古來の教誨法を襲踏するのみにては、決して善良なる成績を收むる能はず。茲に於て吾人は科學を基礎とせる性慾教育を普及せしめて、花柳病の傳播に對抗し、且つ社會の秩序をも維持せんと努むるなり、性慾教育とは古來より説けるが如く、性慾を劣情なり、罪惡なりと做して是を排斥するに非ず、生理的心要事なる事を教へ、同時に其濫行して生ずる害及び其の豫防法を説くものなりとす。即ち性慾教育の要旨は

- 第一 性慾は罪惡にあらずして、有ゆる生物の自然的及生理的必要事なる事。
- 第二 然れども此の行動は人間に對して、精神及び肉體の兩方面に、大なる危

險を伴ふ事あるが故に、此の危険を豫防すべき事。  
 而して吾人が此性慾教育を敢行せんとするは、性慾學を研究するもの特に醫師としての、吾人の職責を感じるが故なり。

## 性慾の本義

### 第一節 性慾の發現狀態

性慾の發現狀態には三種の別あり、即ち

- (一) 何となしに異性の慕はしくなる情
  - (二) 單に異性の愛を得んと欲する情
  - (三) 異性と交はりて性慾を満たさんと欲する情
- 右の第一と、第二とは、多く少年時代にありて、性慾の何たるを知らざる際に

恰も淡き夢の如く又幻の如く生ずるものなり。故に之れを性慾の萌芽と云ふも  
 不可なかるべく、極めて純潔なる性慾なりとす。而して假令成長して性慾の意義  
 を悟るに及ぶと雖も、人に依りては猶ほ純潔を尙びて、性交を卑しむ若しくは是  
 を厭ひ、異性を近づけざるものあり。

次ぎは第三に於ける、性慾の發現なり。これ普通に云ふ所の性慾、即ち狹義の  
 性慾にして、異性ととの交情に發現せるものなり。然れども其の發情は體質及び男  
 女に依りて異なるものにして、甲には強く乙には弱く、又丙は能動的にして丁は  
 受動的なる等の差あり。されども之れを要するに、何れにしても其の思ふ所の異  
 性と親しみて、快感を得んと欲する情は一なり。

而して異性とは、對象的性別の意味にして、男性より言へば女性、女性より云  
 へば男性の謂ひなる事勿論なり、此の異性を親しまんと欲する情は男女同一なれ  
 ども、男は能動的にして女は受動的なるが故に、其の接近の狀には差あるなり。

之れを詳言すれば、男は進んで女を求むる位置に立ち、女は男の要求を容れて、之れを許すに依り、男の女を求むるは獲得にして、女は許諾の形となるなり。性慾は通常異性によりて發し。同性間に起る事なきは、同性相反し、異性相牽の原則に依るなり、故に異性は性慾の根源にして、性慾は異性を離れて生ずる事なしと雖も、顛倒性慾の一種にありては同性の間に起るを常とす。此の種のものは異性を排して同性に親しむ事、全く不自然なりと雖も、尙且つ人と人との接觸にして、同性を愛するに出づる事は普通の性慾と變はる事なし。

## 第二節 性交及び生殖

性交とは、交接とも又交媾とも稱し、異性の生殖器接合して一種の快美感を求むるの謂ひなり、性交の目的は性慾の遂行にあり、又性慾の目的は生殖にありて生殖を遂げたる者には性慾は不必要なるが如きも、事實は然らずして、多くの子

孫を挙げたる後も性慾は依然として變はることなし。換言すれば性交は一種の天性に驅られて、其の慾を遂ぐる爲めに行はるゝものなりと謂ひつべし。

性交より生ずる感情及び性交を遂げしむる性慾は動物に依りて異なると雖も、人間に於ける性慾は生殖腺の特別なる刺激と、徳義的同情並びに知的感覺との聯合より起るものとす。而して性交が適當なる方法に於いて、適當なる事情の下に遂行せらるゝ時は快樂を生ずれども、若し然らざる時は之に反する結果を生ずべし、故に性交の適當なる満足は幸福を來たし、不適當若しくは不満足なる性交は不幸を招致するものと見て大過なかるべし。

人間の性交力は之を使用する方法の如何に依つて、或ひは長く之れを持続せしめ、或は早く衰萎せしむるものなり。換言すれば性交の濫行は其の持続期を短縮せしめ、之れを節する時は其の持続期を長からしむ、而して其の持続期の長短は人に依りて異なり、或る者は長く或る者は短かし。特に男女に依りて等しからざ

るは人の能く知る處にして、男子の性慾は高年に至りても衰へざるも、性交力は之に伴はずして多くは早く衰萎するを常とす。然るに女子は之に反して其の性交力の持続期は長く、性慾は短かし。即ち其の生殖力は概ね月經閉止と共に消滅するを原則とすれど、多くの場合は其の性交を持続すること、閉經前と異ならざるものあり。

性交は一種の快美感覺を求むるにありて、必ずしも生殖を主とするに非ざる事は前に述べたるが如し、然れども性交に依りて生殖の成就せらるゝ事は皆人の知れる所なり。而して生殖に對する慾望即ち生殖慾——子を希望する慾——こそ眞に性慾の本旨に適したるものと云ふべけれ。

單に一種の快美感覺を貪らんとしての性交以外に、此の生殖慾を満たさんとして性交を遂行するものも亦あるなり。生殖慾は子を有せざるものに於いて著しく特に直接生殖の任務を負へる女子にありては、子無き原因の夫婦何れに有るを

問はず。其の罪は一般に女子に歸せらるゝ習慣に依りて、女子は子無きが故に生ずる苦痛を感じる事一層多大なりとす。

### 第三節 異性に對する快美感

異性に依りて快感を求むるものに、前記せる如く性交即ち肉體に依るにあらずして、其の心を歡ばしむるものなり。

異性に依りて心を歡ばしむるものは、其容貌、音聲等の如く感覺器を刺戟して美の感情を腦に與ふるものと、性愛の如く直接に精神を歡ばしむるものとす二種あり。容貌の美は人種に依り又個人に依りて異なるが故に、美の感情は一定せず之れに依り甲の見て以て美とする所のもの、必ずしも乙の美とならざることあり随つて甲乙其感情を異にすることあるは珍しからず。

されども異性の美貌を快感の要素にして、美の感情なければ、快感を得ること

少なし。音聲も同一の意味を有するものなり。

次に異性の接觸は、生理的に快感を生ずるものにして、容貌に關せざれども身心相關の理に依りて、容貌の美なるものは美なる程多く快感を惹き、醜きものはこれに反すること言ふ迄もなし。これ美人の好かれ醜婦の嫌はるゝ所以にして異性の觸覺美は畢竟視覺美に比例すと云ふも誣言にあらざるなり。

然れども男女は一たび愛の人となれば、交情密となりて容貌も其深く問ふ所のものとならざるなり。諺に謂ゆる痘面も笑靨に見ゆとは、當に此を云ふものなり

### 原始的の性慾

#### 第一節 自由なる性交

原始的性慾とは、智識も道德も未だ開發せざる時代に於ける最も劣等なる心力の一にして

動物と等しく單に性慾を満たさうと欲する本能に外ならず。此時代にありては男女に些の羞耻心なく、性慾を食慾と同視して本能の儘に是れを行ふに依り、其の性慾行爲は實に公然なるものあり、これ原始的性慾の特徴にして、人類の祖先と稱せらるゝ原人は、恐らくは此の状態なりしならん。

現今に於て原始的性慾を遺憾なく發揮せるものは南洋土人にして、其の最下等の蠻族にありては性慾に關する、智識は皆無にして、原始的本能を有する外に毫も羞耻心を有せず、故に其の性交は公然にして隨所に行はれ、開明人の如く何等之れを秘密にすることなし、而して右の如き習慣を有するものはメラネシア、ポリネシア、ニューカレドニア等の諸群に及び、濠斯太利亞の土人にして、男女の關係は殆ど動物の如く自由放縱にして、其の性交は時として親子の間に行はるゝことあり、或は兄弟若しくは叔姪の間に結ばるゝことあり。されど彼れ等け之れを以つて人倫を破り、道に反するものとは思惟する事なく、之れを人間の普通なる行爲として怪しむことなし。

第二節 羞耻心の缺乏

人間の行為中最も秘密に附せらるゝものは、性交なれど前にも述べたる如く、メラネシヤ  
ポリネシヤ等にては、公然行ふて耻づる事なし、而して彼等の是を行ふ場所は、屋内に非ず  
して、多くは森林又は藪の内を撰び、而も白晝に行ふを常とす、故にある人は此の事實を以  
つて、彼等にも羞耻心あるが爲め、人目を避くるものなりと言へども、こは羞耻の觀念より  
出でたるにあらずして、是れには二個の原因を有す。即ち(一)公然にては人の妨碍を受くる  
ことあること、(二)人の見る前には、疑懼の爲めに、十分の快樂を盡くし能はざること是れ  
なり。

共に等しく秘密の行為には相違なれど、敵人の視線を避くる爲めのものと、羞耻を蔽ふ  
爲めのものとは、其性質自から異なれりされども、其意味なる野蠻人が敵人の視線を避け静  
肅を保つ爲めに、隠れて行ひたる事が、智徳の進むに随ひ羞耻心を伴ひて、遂に今日の如く

發達せるものなる事明なり。

斯の如くメラネシヤア、ポリネシヤ等の羞耻心の缺乏せる者にありては、貞操の觀念毫  
もなく、唯性慾の發達のみ著しくして、女兒は幼時より一種の猥褻なる舞踏を其の母に教へ  
らる、此舞踏は男女の性慾及び性交に關する状態を表はせるものにして、外國人の目より見  
れば淫猥を極めたるものなれども、彼等には少しも左る感を與へず、之れを立派なる舞踏と  
して熱心に練習するなり。

又ソサイテ島其他の群島には、宗教上の一種の講ありて、講員の男女は何人を問はず思  
ふが儘に、性慾を遂ぐる事を目的とし頗る盛なりと云ふ。

第三節 裸體生活

メラネシヤ、ポリネシヤ諸島にては、男女共裸體を以て天然なりとし、之れを蔽ふ必要な  
しと信じ、常に全裸體にして腰部すら蔽ふ事なし、稀に木の葉、布片等の類にて形許り之

を蔽ふものあるも、陰部を隠すは却つて耻辱なりと爲せり。  
 是れ氣候暖熱にして被服を要せざるの致す所なるは勿論なれど、元來は被服を纏ふ者を以て身體の畸形、若しくは醜體を隠すものとなし、裸體を以て自然の最美と思考せるが故なり  
 往古の事蹟に鑑むるに、蠻人の陰部に對する觀念は神聖にして、之れを露はすを以て合理なりとし、之れに反して陰部を蔽ふは不合理にして、生殖器も畸形、若しくは疾病等あるにあらざれば、隠蔽せざるものと信ぜり。

#### 第四節 妻妾の貸借交換

妻妾の貸借交換は一種の相對的義通にして世界各地に行はれ、歐洲にても古昔は此の淫風盛に行はれたる事は、歴史に残れる所なり。

古希臘のソクラテス氏の如き高德の人にて、屢々其の妻を他人と交換し、又當時の名門の人にして、此醜風を行はざるもの無かりしと云ふ、是れ希臘の民政時代にては、國民は共

有主義を採りて、婦人及び小兒を國の共有としたる結果に外ならず。

現今に於てはメラネシア、ポリネシア等の蠻人間に最も盛に行はる、是れば夫を持ちたる女は、最早自由に淫行すること能はざれども、其の夫は自己の妻妾を他人と貸借交換する事を得るのみならず、場合に依りては之れを賣買し、又は擔保とする事も隨意なり、而して其の妻妾何等是れに對して苦情を唱ふる權利なく、却て何事も其の夫の命令を奉すべき義務あるものとす、故に若し其の妻妾にして夫の命令に従はざる時は、用捨なく打擲せられ、往々之れが爲めに傷を負はせられ、甚だしきは撲殺せらるゝ事さへあり。

斯くの如き野蠻極まる風習は今日の文明國に於ては、殆んど想像することだも能はざるものなれど、某國に於ては數十年前以前僻村に之れに類似せる醜風が行はれたるものありしと聞けり、併しながら斯る事は野蠻人間に於いて婦人を全然物質視するより起る事柄にして、一方に於て其の夫が妻妾等が隨意に他の男子に交際する事をすら許さざるに拘はらず、一端已れが之れに命令する時は自由に他人に貸與し、交換し、賣買し、而して若し其の妻妾が其の命令に服せざる時は打擲し甚だしきは撲殺さへするに至つては、之れ全く物質として取

扱へるものにて、野蠻時代に斯かる風習ありしかと思へば吾人は今日の男子と婦人と同等に見る思想と雲泥の相違を覺ゆ。

## 賣淫論

### 第一節 賣淫の意義

性慾は一面より是れを見れば、最も汚穢にして厭ふべきものなれど、他の一面を見れば前に述べたるが如く崇高純美の極致にして、神聖なるものなりとす。然れども此神聖なる性慾を、神聖なるものと做さずして、不潔なる性交によりて劣等なる性慾を満足せしむるは頗る厭ふべき事にして、特に賣淫に至りては不潔中の不潔、汚濁中の汚濁なりと謂ふべきなり。

吾が國の所謂賣淫の名稱は獨逸語の Prostitution 即ち自己を提供すると云ふ言葉にして、是れ丈けにては賣淫と云ふ能はされど、其の自己を提供するとは他人

の要求に應じ甘んじて自己の肉體を提供すること、即ち賣淫の事となるなり。吾が國にては賣淫に、賣笑、賣色、賣春、醜業等の異名あり、何れも相當の報酬を得て色情を鬻ぐの義なり。

佛蘭西の性慾學者レイ氏の定義に依れば、賣淫とは淫行を目的とする婦人が、代償を得て男子に自己の身體を提供することを云ふ」と、以上の定義を分解すれば、(一)淫行を目的とし、(二)男子を相手とし、(三)必ず代償即ち報酬を受くる事の三條件を具備したるものが賣淫となるなり。併しながら、營業的の賣淫には以上の三條件の外に必ず、其の行爲を屢々反覆する事も數へざるべからず、即ち唯だ一回の淫行にても報酬を得るものをも營業的の賣淫と見做すべきや、例へば親の貧困を救はんが爲めに、餘儀なく一時その身を他人に任せたる時の如し斯る場合には假令報酬を得るとても、營業的賣淫と稱する事を得ず、其の行爲の屢々反覆さるゝに及びて初めて營業的賣淫と稱する事を得るなり。



## 第二節 賣淫の種類

賣淫を廣く解釋すれば、總べて性慾を満たす爲めに行ふ所の性交にして、是れに廣狭の二義あり、廣義の賣淫とは非營業的のものにして、狹義の賣淫とは營業的のものを云ふ。

廣義の賣淫即ち非營業的の賣淫は、其範圍頗る廣く正婚以外の性交にして、單に有形の報酬のみならず、或る種の無形の報酬、之れを例へば對者より好意を得んが爲めの性交の如きは是れに屬するものとす。好意を得んが爲めの性交は、即ち接待賣淫にして、是れは如何なるものかと云ふに、若し一家内に客來ある時主人は自己の利益の爲め、或は尊敬する所の客なる等の場合には、自己の妻又は女奴隷或は自分の娘を提供するなり。而して客若し之れを辭退する時は却て禮を失すると稱せらる。是等の惡風は南洋にも行はれ、又亞細亞に於てはヒマラヤの西

方或ひはカムチャツカにも行はれ、其他亞細亞の或る一部の人種の間にも行はる。次は宗教的賣淫なりとす、こは古くバビロンに行はれ、後希臘にも傳はれり。尙孟買に於ては現代に於ても行はれ居れり。是れは殿堂にて、吾が國にて云へば巫女の如き舞妓が、參詣者の希望により肉を提供し、一種の報酬たる賽錢を得るなり。又南洋諸島の或る一小島に行はるゝ俗習にては、僧侶は神の保護の内にあるものなれば神聖なりといふ考へより、女子は自己を提供するを常とす。又或る地方にては婦人が神を尊崇するの餘り、寺院内に於て衆人に自己の肉を提供することあり、寺院は恰も妓樓の如き觀を呈す。

更に又祭禮賣淫と云ふものあり、戀愛祭とも稱し専ら亞細亞地方に行はる。此の種のものゝ吾が國の或る地方にも盛に行はれ居れり、そは祭日の日に若き婦人は皆美しく飾り立て、若き男の眼を引きて夫れ々々男子を得、野合的に肉を提供するを云ふ。其の他に是れと類似せるものあり、昔時希臘に校書隊と稱する美

人の一隊ありて、武人が戰場より歸り來れば、此一隊に向つて競ふて貫突し、己が好める美人を得て飲酒に耽り、享樂の歌を歌ひ、歡樂に其豪快を誇りとせり。吾が國にても戰國時代には白拍子なるものありて、武士は大に是を愛し、又白拍子自身も自己の戀人となれば殆ど一生を提供す。是等は勿論報酬を得れども、是に一種の戀愛を喚起して一生を男子に托せし者あり。

此外に純粹なる營業的の賣淫あり、即ち若干の報酬を得て肉を提供する最も露骨なるものなりとす。營業的賣淫に關しては尙ほ詳細に記述すべし。

### 第三節 賣淫の原理

偕て此の賣淫は如何なる要求より起れるものなるか、今其の根本的起原より述べれば、元來人間の慾望に二つの重大なるものあり、即ち食慾と性慾となりとす。人類は食慾に依つて自己の身體を養ひ、性慾に依つて子孫の繁殖を計る故に此性

慾は子孫の繁殖を計る爲めに大切なる一のミーインスなりとす。之れを行ふ所の形式には種々あり、開明人となるに従つて、之れを神聖視して人生中最大重要な儀禮の一として、婚姻と稱する形式を取れども、未開人種は唯自己の性慾の勃々たる所、其如何なる婦人なるを問はずして其の慾を満足せしめ居る事は既に前述せる所の如し。

斯くの如く文明國人は、婚姻なる形式を以て最善なる方法とし居れるが、文明の度愈々進み社會の秩序益々整然たらんとする時、そこに生活難生じ其結果容易に結婚し得ざるものあるに至り、是等の輩は其本態を抑ゆる能はず、何處に於てか最も簡單に此慾望を満たさるべからざるに至る、賣淫は實に此要求に應じて生じたるものなりと云ひ得べし。

然れども又一面より觀察する時は、生活に餘裕なくして結婚する事能はざるものが賣淫婦に接するよりも、生活に相應の餘裕ありて妻を娶れる者却つて多く賣

淫婦に接するを見る、之れに依つて考ふるにシルレル氏は美術の起源を以て人に遊戯心あるが爲めなりとなし、之れを「スピール、トリーフ」の作用と稱せり「スピール、トリーフ」は生活力に餘裕ある者がその生活力を消費せんが爲めの發作にして、一方に於ては精神的に美術の製作、觀照となり、他の一方に於ては肉性的性慾、食慾を満たさんとするの動作となるなり。

是れに依つて見れば生活の餘裕なき者よりも、生活に餘力ある者の「スピールトリーフ」の作用強きは當然にして、彼等の淫賣婦との性交は是れ全く遊戯的の性交に屬するなり。

#### 第四節 賣淫は絶滅せず

賣淫は前節に述べし如く人間の遊戯性より生ずと云ふを得べし、而して此賣淫は果して避くべからざるものなりや否や。

### 性の智識

#### 性の智識

十九世紀の初め佛蘭西の有名なる賣淫學者バレン、ヂュシヤテレー氏は賣淫を下水に喩へ不潔物に對する水道なりと云ひ、トーマス氏は都會にある所の賣淫は宮殿中に雪隠あるが如きものなりと稱し、又皮膚科の大家カボレー氏は賣淫は正しき婚姻外の性交を遂げんが爲めに起れる文明史上の一事實なるを以て、吾人が歴史中にある以上賣淫を絶滅する事は到底出來得べき事に非ずと稱せり。即ち文明の度進むに隨つて賣淫の發達を示すものある事を稱せるなり。

賣淫は斯くの如く避け得べからざる人間の生存と性慾の上より來るものにして到底防壓し得べきものにあらず、然れども國家は若し是れに對して適等なる方法を講ずる事なくば、是れに伴ふ害惡と共に花柳病蔓延し、其の結果は實に怖るべきものあるに至る。茲に於て賣淫は只單に宗教、道德、衛生のみの問題にあらず又國家問題として攻究せざるべからざるなり。

## 第五節 賣淫に對する政策

今日に於ては賣淫は一の國家問題にして、或る國にては全く其の不潔を去るべき賣淫を禁止し、或る國にては之れを黙許し、又或る國にては法律にて之れが取締を嚴にする等、適當なる方法を講ぜざるはなし。尙詳しく述べれば左の如し。

(イ) 禁絶主義 此主義は賣淫の廢絶を圖る爲めに、全く之れを禁止する主義にして、恰も雪隠及び下水を家宅より取り除かんとするが如し。此政策は人道に極めて適切にして、何人も理想とする所なれども、賣淫は決して根柢より禁絶し得るものにあらず、表面峻嚴なる主義に依つて禁止すとも、裏面には却つて怖るべき種々の害毒を流布する事、從來の事實に徴して知るを得べし。

(ロ) 黙許主義 此主義は賣淫に對して自由も與へず、又は禁止も斷行せざるものにして、孰れかと云へば公認に傾ける方なり。而して此政策は賣淫禁絶の困難

と、開放の弊害とに鑑みて、未だ孰れとも解決の付かざる場合に行はる。

(ハ) 自由主義 自由主義又開放主義と稱す、賣淫に對して何等の制裁なしに公許したるものにして、其主義の行はるゝに亦二種の別あり、其の一は賣淫に關する智識未だ開かざるが故に、恐るべき病毒の之れに附隨するものあるを知らず、假令是れを知りても豫防する智識に乏しくして、自然に放任せるものを謂ひ、他の一は禁絶主義も制限主義(次に述ぶ)も、其の効果渺なきに失望して、遂に此の主義を取るに至れるものなり。

(ニ) 制限主義 制限主義又干渉主義は、賣淫を一種の營業として、之れを公許したるものを謂ふ。此の點は黙許主義と似たる所あれども、前者は公許あらざるを異なりとす。而して此主義は政府の規定したる命令の下に賣淫業者は公然營業する事を得るものなれば、體面上極めて汚醜、穢瀆なるが如くなれども、若し賣淫を禁止する時は姦通、野合、私生兒の増加、花柳病の傳播等却つて社會に害毒

を流すに至るを以て、此主義を採るは亦實に止むを得ざるなり。

第六節 公娼と私娼

賣淫は最も汚穢極まるものなれども、是れを絶対に禁止する時は、社會の裏面に却つて害毒を流し其害誠に怖るべきものあり、然れども又賣淫を其の自由に任せ置く時は、淫風吹き荒み濁流は滔々と襲ひ來りて、是亦怖るべき弊害を醸すに至る、是れに依つて吾人の見る所にては、制限主義を以て最も適當なるものと認む而して今日行はれある、賣淫制度に就て其大要を述べれば

(イ)公娼 是れは官廳の許可を得て營業するを云ふものにて、吾が國に於ては妓樓にある所の淫婦即ち娼妓を指すものなれども西洋にては公娼を二つに分け妓樓に住居する所の娼妓と、市街へ自由に住居して散歩の客を引き付ける所の娼妓とあり、是れを街娼と稱し、獨、埃、佛の諸國には此の街娼多きを見る。

(ロ)私娼 是れは密娼とも稱し、官廳の許可を得ずして、密かに賣淫を働く所のものを云ふ、現代に於ては公娼よりは寧ろ私娼の増加する傾向を有す、何故に私娼は近來増加するかと云ふに、私娼は檢査其他種々なる制裁なきより益々増加するものにして、歐羅巴の統計に依るに百萬以上の大都市にては、人口百萬に對して三千人の公娼を要する、然るに之に對する密娼の数は實に十乃至二十倍に當ると云ふ、此比較よりすれば吾が東京に於ても、三千人の娼妓あるとすれば、三萬人乃至六萬人の私娼を有する計算となる、然れども公然なる所の数は極めて少なし。こは柳陰影暗き所にて捕はれたるもの、數のみを擧ぐるが故にして、事實は決して斯くの如く少なきものにはあらず。

吾が東京に於て現在警察にて風俗上の取締を要する所のものは、宿屋、待合、貸席、氷店、料理店、飲食店、芝居茶屋、大弓場、藝者、貸座敷等の雇女にして此數二萬九千九百餘人なりと。西洋にても玉突場、踊場、活動寫眞或はバー等

は盛んなる私娼の働き場なるが、尙驚くべきは安下宿迄彼等の白面鬼が手を延べつゝある事なり、其他佛蘭西の巴里にては賣淫婦は裁縫店又は呉服店等と連絡を取つて、珍らしき服が出来れば夫れを着て町を散歩しつゝ、各國の金を持つて居るものを引掛て賣淫する。尙一つ面白きは燕女と稱して建物の角の窓の所を占領して、其窓より白粉を装へる顔を見せ、又は衣服をチラ／＼見せなどするにより、外を通るものが誘引さるゝと云ふ。

第七節 日本賣淫史 (一)

昔我國の平安朝時代の頃、遊女白拍子等の賣春婦現はれたれども、時の政府は是れに對して何等の管理もせず、制裁も加へず、自由に任せ置きたるを以て公娼私娼の區別全く無く、即ち自由賣春婦たりしなり。然るに徳川氏の初期以後には始めて遊廓制度を設けられ、公娼の區別生ずるに至れり。

慶長の年代までは、大阪、駿府の他に繁盛の地には勿論、其他諸國の港驛には、古昔より遊女町と稱するものあり、是等は一定の區域に集めずして諸所に散在せるものなりしが、慶長十七年の頃庄司甚右衛門と云へる人、江戸に一定の公認遊廓を設けて諸方に散在せる娼家を一定區域に集め、風俗の頹廢を正しくする必要を感じて、其の由を江戸町奉行に提出せらるゝに、元和三年甚右衛門の願ひは叶ひ、幕府より彼に五個條の規則を申し渡され、茲に即ち吉原は開かれたるなり。其中の明文には「傾城町の外傾城商賣すべからず」と云ふがあり、是れ初めて世に出でたる遊廓制度なりとす。是れ迄は諸方に散在せる所の娼家を、吉原と稱する一定の場所に集めて都會と隔離し、以て風俗の頹廢を防ぎ、一方には一定の區域外に於ける賣春婦は、悉く是れを所謂淫賣女として嚴罰に處することとせり、是れ私娼處罰の嚆矢なりとす。

斯くの如く徳川幕府は、元和三年吉原の遊廓を許可すると共に、他所に於いて賣笑を營む所の私娼を禁ぜり、併し此の禁は初め効ありしも、承應年間より禁を破るもの漸く多くなり

初めは唯品川千住等宿驛に二三ありしに過ぎざりしが、後追々増して元祿時代には音羽町、正徳時代には根津等にも遊女町起り。享保以後には淺草田原町より下谷筋違ひの邊り及び本所深川に及ぼし、尙芝三田、赤坂田町、麻布市兵衛町、四谷鰻ヶ橋等十數ヶ所に娼家軒を並べ、所謂岡場所と稱し私娼の巢窟をなせり。私娼は幕府の禁する所なりしを以て、屢々禁令を出せるも其効なく、吉原公認遊廓以外の區域に於いて、種々の形を以て顯る、淫賣女は少しも絶えざりし。

第八節 日本賣淫史 (二)

戦止み平和の風吹き染めて、武人も平民も皆安逸の心を枕に托して、漸く肉を思ふ様になり。こは是れ實に三代將軍以後にして人々は皆肉體の觀樂は憧憬するに至れる結果、賣笑婦も亦其需要に應じて公娼の他に踊子、女藝者、湯女、比丘、白人、けころ、山猫、飯盛、夜鷹等の私娼算を亂して増加せり。又寶文年代の頃より江戸以外に於いて公許せられたる

遊廓は京都の島原、山城の伏見柳町、近江の大津馬場町、大阪の瓢箪町、兵庫の磯町等なり。今日に於いても同様なるが、當時私娼の中にて最も高等の位置を占め居りしは所謂女藝者なりしなり、此女藝者は五代將軍の頃起り昔時の白拍子の如く諸侯旗本等の邸宅に招かれ宴席に待し歌舞三絃を奏して、興を添へたるものなり、併し是れとても實は私娼なりしなり。元文五年には三奉行より道中奉行に「女踊子と申す賣女是有る由、是又先達て申渡通し吟味可申附、すべて踊子の儀も猥りに無之様可被申附候」と嚴達せり、併し是は遂に空文に歸し、私娼益々増加して社會に害毒を流すに至れり。而して今日新橋又柳橋に隆盛を極めつゝある藝者の元祖は即ち是等の踊子にして、此踊子が藝者と稱するに至れるは明和安永の頃に始まる。

當時に於ける岡場所(私娼)の最も繁盛を極めたるは深川なりし、深川は辰巳と稱せられし故に此所の藝者も辰巳藝者として懸盛を極めたり、然れども是等は皆私娼にして盛に色を賣れるものなり、私娼益々盛にして爲めに吉原の公娼は寂びれ遂に幕府に訴ふるに至れるを以

つて、幕府も断然江戸市中の岡場所を廢して、吉原移轉を命じ遊女屋に轉業せしめたるが故に、一時効ありしかば又々深川を始めとして所々に賣淫を業とする者生ぜり、茲に於て幕府の威力も遂に時代の要求する肉の力には及ばざりしなり。

徳川時代の藝者は以上にも記せる通り、淫賣女郎私娼として幕府の遊廓制度にて取扱はれ居たるが、明治維新の後藝者は藝人の内に入るに至り、即ち向上したる如き觀あれど事實は大正の今日に至る迄依然として私娼なるなり。

斯くの如くにして、徳川の初世には散娼制度なりしものが、一つの遊廓制度となりてよりは、其廓内に一夜以上泊むる事を得ざる制度を設けて人民の遊惰を防ぎ、又身分ある者の出入を可及的制限し、且極めて行動の怪しき者は直ちに奉行所に密告すべき制度を採用し、此の制度を執りてより殆ど江戸に於ける賣淫婦は悉く吉原の一廓に集り、吉原は繁盛其の極に達せり。

第九節 日本賣淫史 (三)

其後遊廓にて晝夜其營業を爲す時は、商店の番頭、勤番の武士等が偶々遊興の爲めに時間を過つて、其商店の取締又は勤番の取締上不可なるを見、遂に夜間の營業を禁止するに至れるより、さしも繁盛を極めたる吉原も之が爲め衰微に陥り、之と同時に私娼が非常に繁昌を極むるに至れり。

次で明暦二年に江戸に有名なる大火あり、此大火の爲めに舊吉原も焼失し、其年の八月に今日の新吉原に遷れるなり、此時には種々の制度を設け、之れを札書して吉原の門外に立てたり、是れ即ち新吉原の制札なりとす。

此時には娼妓にも種々なる階級あり、即ち太夫、格子、局女郎、端女郎、初見世女郎、百藏、喧鈍、鐵砲、散茶女郎、梅茶、茶女郎等となりし。

徳川の全盛時とも云ふべき彼の元祿時代は徳川の文弱遊惰の風を一時に集め實に賣淫の



全無期たりしなり。夫れより前述の如く遊廓の数は漸次増加して全國に二十五個所もありしと云ふ殊に、娼妓の数は吉原に二千人、島原に八百人と傳へられ、此時代は今日の如く露骨に肉のみの慾望を満たさんとする下劣時代にあらざりしを以て、所謂名妓なるもの輩出し、諸侯にして吉原に遊ぶものも尠ならず、仙臺侯の高尾に於けるも亦其一例なり。

次で享保九年に吉原の中に於て、武士と町人との間に争ひ生じたるより吉原の夜間營業を斷然禁止せり、茲に至つて一時隆盛を極めたる吉原の繁昌も亦衰えかゝれり。

更に寛政七年には松平越前守は吉原に肝入と稱する役を設けて、寛政吉原拵證又しを定め、妓樓にも大籠、半籠、大見世、小見世、小格子、切見世等種々なる階級を生ずるに至れり。

天保年間には吾が國の鐵血宰相と呼ばれたる水野侯が、當時地方及び江戸に多數の娼妓及び妓樓出來し、若し之を放置する時は種々の弊害を醸し國家に危險を與ふる懼れあるを悟り所謂天保の革政に當つて私娼を嚴禁せり。然るに嘉永六年に又々私娼現れたるを以て、嘉永

の「吉原拵證文」を定めて此賣淫婦を取締り、斯る時に方り外國との問題起り國中は擾亂の巷と化し、爲めに遊廓なるものも漸く衰頽に傾き、從つて吉原の廓氣質も無くなり、娼妓の氣質も漸次下劣となり、遂に今日の如く何等特色無き醜きものとなり了れり。

### 野合、姦通及蓄妾

#### 第一節 野合の三種類

野合とは正當の夫婦にあらざる男女の性交を營む猥なる舉動にして、私通、出來合、轉び合等の俗稱あり。是れに定期的野合、私婚、和姦の三種類あり。

定期的野合とは或る祭日の如き期日を選び、此の日に限りて男女は恣に相戯れ其の人の妻なると娘たるとに論なく、すべての婦人はみな男子の共有物となりて性交を許すなり。此蠻風は現に亞弗利加、亞米利加の蠻民中に行はれ、歐洲にては獨逸に其の遺風ありと云ふ、吾が國にても此惡風は某の地方に行はれしが警察

の命令に依りて、僅かに公けの野合は行はれたるに至りたるも、内々は行はれあ  
る所ありと云ふ。尙東北地方に行はるゝ盆踊り又は鎮守祭り舞踏の如きも其一種  
と看做すべし。

私婚とは謂ゆる内縁の夫婦なるものにして、事實に於ては眞正の夫婦なれども  
戸籍面に登録せられざるが故に、法律上にては夫婦と認められざるものなり。而  
して私婚は吾が國に於て割合に多きは、其の理由三つあり其の一は眞に結婚の意  
なく、唯だ一時的結婚を爲す者、其の二は試験的に結婚を爲す者、其の三は老年  
の再婚にして名を憚る者多きに依るなり。

又和姦とは廣き意味に於ては、野合、私通等の總稱なれども、狹義に解釋する  
時は然らず、即ち内縁の夫を有する婦女が他の男と私通するものにして道徳上  
ては純然たる姦通なれども法律上にては、刑法に問ふこと能はざるものを云ふ。  
和姦は次に述べる姦通と頗る似たれども、其相違する所は姦通は法律上正當の夫

婦と認むべき法律上の手續を履行したる婦女が、他の男に通じたる場合を云ふも  
のなれど、和姦は法律上の手續を盡さざる内縁の婦なる時に限れるなり。

## 第二節 姦 通

姦通とは正當の夫婦と認むべき者、即ち法律上制規の手續を履みたる夫婦の一  
方が他の異性と性交を重ねたる場合を云ふ。吾が國の刑法にて姦通の罪なるもの  
は、主として有夫の婦女及び是れと性交せる男子にして、正當の妻ある男子が他  
の婦女に戯れ性交を行ふともそれは毫も問ふ所にあらず。吾が國の刑法にて罰する  
ものは所謂有夫姦なりとす。

然れども歐米の法律は之と異なりて有夫姦の外に、有婦妻の夫が、妾を蓄へ或  
は賣淫婦に戯れ其他の婦女と通ぜし場合にも、等しく姦通罪となるなり。

吾が國の刑法が獨り有夫姦のみを罰して、有妻姦を罪に問はざるは、古來より

の男尊女卑の遺風と見るべきなり。而して前に述べたる、接待賣淫の變形より來れる姦通も又是れに屬す、又姦通を恐喝に利用したるものに所謂美人窟なるものあり。

### 第三節 妾及蓄妾

妾とは何ぞ、吾人の見る所に依れば妾も亦密賣淫の一種なるが、密賣淫には罪ありて妾には何等の制裁なし。  
それは即ち吾が國にては妻の外に妾を認めて妾腹の子を庶子として届け出づる事を得るが故に、密かに妾を蓄へて快樂な恣にし甚だしきは公然と家に入れて、妻と同棲せしむるものさへあり。

妾は之れを蓄ふる男子に獨占せらるゝものなれば、或る學者は之れを公娼の中に入るゝ者あれども吾人は、私娼即ち密賣淫の中に屬せしむるを適當と信するなり。如何となれば公娼

は成規の手續を経且一定の區域内に於て營業する事を許されたるものなれど、妾は然らざればなり。然らば何故に吾が國の法律は、蓄妾を不問に附して之れを罰せざるかと云ふにこれ一宵の期間男の獨占する所となり、恰も妻の如き性質を帯ぶるに依るものなるべしと雖も、其期間は相互の契約に依りて定まるものにして、契約の長短に依りて妾を區別すれば、(イ)永久的の妾(ロ)一時の妾の二種となる、而して其前者は内縁の妻の性質を帯び、後者は密賣淫婦に類するものと謂ふに至當なりとす。

## 婚姻

### 第一節 婚姻と賣淫

今日に於ては、婚姻は人生に於ける最も眞面目なる問題なりとす。婚姻とは或る形式に従ひて、規約の下に男女の正當に配合する事を謂ふなり。而して此の形式は土地及び民族に依りて異なるが故に、婚姻の様式には種々あれども、要する

に一種の賣淫にして、婚姻の歴史を調査すれば、野合若しくは姦通よりも、規則正しく賣淫より變遷し來れるものなる事を知るを得べし。

今日行はるゝ結納の如きは、婚姻が賣淫より進化せる其遺風にして、之れは元婦人を買収して妻とするに際し、其花嫁の價格に對する報酬として、夫より其の妻の父母に拂ひたるものゝ遺風なりとす。斯くの如く婦人を買収する事は、廣義に稱する賣淫にして、婚姻は斯る賣淫より進化せるものなる事は、其の歴史及び今日野蠻人間に行はるる奇習等に依るも知るを得べし。

## 第二節 原始的婚姻

婚姻の最も賣淫に近きは、原始的の状態にあるものにして、此時代に於ては婦人の位置頗る低く、婦人は只男子の性慾を満たし、洒掃薪水の勞を執るべきものと見做されたるに過ぎざるを以て、婚姻の如きは奪掠、賣買に依つて之れを爲し

又其の最も賣淫の性質を帯べるものに、定期婚と稱するもの行はれたり。

(イ) 奪掠婚 奪掠婚とは結婚せんとする男子、突然婦人を奪掠し來りて之れを己が妻とするを云ふことは、最も原始的なる婚姻にして、多くは濠斯太良利亞、南洋諸島及び太平洋諸島中に行はる。而して此種の婚姻をなす種族は一夫多妻なるを常とす。

斯る結婚の奪掠手段には頗る殘忍なるものあり、恰も獸類を狩るが如く、棍棒槍、其他の武器を携へて他の部落に侵入し、其の家族を殺害して獨り意中の婦人のみを奪ひ去る事あり。斯る奪掠に依りて結びたる男女の間には、夫婦の愛情のあるべき筈なく、婦人は男子の附屬物の如く全く其の自由を束縛さるゝのみならず、酷使冷遇等知らざる所なきは言ふ迄もなし。

(ロ) 賣買婚 賣買婚は奪掠婚の進歩したるものにして、其の希望する所の婦人に對し、一定の價を拂ふものなるに依りて其の性質の賣淫に近きを知るを得べし

或る學者の説に依れば賣買婚は奪掠婚の變化せるものにして、最初奪掠したる婦人に對し相當の代價を以つて買收するに至れるものを、賣買婚と稱するなり。賣買婚は婦人を娶ると云ふよりも、寧ろ買收すると稱する方適當にして、實際に此習慣の行はるゝ所にては、婦人は人として待遇せらるゝよりも、一個の商品として扱はるゝに過ぎざるなり。

現時賣買婚の行はるゝは、亞米利加カリフォルニアのカロク人、シャチカ人、英領コロンビヤ及びバンクーバ島土人、亞細亞のカールミツク種族其他なりとす

### 第三節 多妻式及多夫式

今日文明國人の婚姻は一夫必ず一婦を娶るに過ぎず、所謂一夫一婦を式とすれども、野蠻人、未界及び開化の初級にあるもの等に於ては、一夫にして多夫を娶る所あり、或ひは一婦にして多夫に見ゆる所あり、即ち多妻式及多夫式之れなり

彼のモルモン宗及びマホメット教にては、宗教上の教義に基きて一夫にして數名乃至數十名の婦を迎へ、又土耳其、波斯、印度等には宗教上の教義に依るにあらずして、一夫にして同時に數名の婦と同棲するものあり。隣國の支那及び我が新領朝鮮にては、正妻の外に尙ほ數名の妾を蓄へ、事實に於ける多妻式なるものあり。

多夫式とは、一人の婦が多夫に接するものにして、例へば西藏人が一家數人の兄弟にて、一人の婦人を娶りて妻となすが如し。而して西藏人の妻は其の何れの夫に對しても、一樣に柔順なる態度を以て接せざるべからず、西藏に於て良妻と稱するものは、實に斯かる種のものにして、其の夫に依り愛情及び待遇を異にする妻は、不貞として擯斥せらるゝなり。

是れは現時には存在せざる事なれど、國家の共同婦人なるものありて、男子は其の如何なる婦人にも接し、女子は又誰彼の別なく多くの男に見ゆる事自由なる

ものあり。こは古代希臘に行はれたる所の共同結婚にして、彼の武を以て鳴りし  
斯巴留多人は此主義を探り、婦人及び小兒は國家の共有にして、誰の妻、誰の子  
と云ふ事は殆ど無きなり。

### 第四節 結婚の要件

前に述べたる如く婚姻は賣淫の進化したるものなれど、今日文明國に行はるゝ婚姻は直ちに賣淫なりと云ふに不當なるべし、例へば今日の人類は原人より進化せるものなれど、原人と今日の文明國人とは其間に甚だしき懸隔あるが如し、然れども今日に於ても尙、生活に對して無能力なる婦女子が唯生活の基礎の安全ならんが爲め、或は虚榮に憧れて結婚する者あるを見る、斯くの如きは是れ均しく賣淫の性質を帯ぶるものと稱して不可なかるべし。  
吾が國近來の離婚數が、歐米諸國に比較して頗る多きは、眞の意義ある結婚をなすにあらすして、前に述べたる如き虚榮或は生活の爲め賣淫の性質を帯びたる結婚をなす者多き事實

に、其の主要なる原因たらざるべからず。凡そ結婚の要件としては、愛情と性質と格質と及び收入とが適合せざるべからず、然るに虚榮或は生活の爲め結婚する者は、前記の要件に關して殆ど熱慮する事なく、只結婚を急ぐの結果、妙齡の婦女にして枯木の如き老翁に嫁するものあり、強壯にして青春の情燃ゆるが如き年齢の婦人にして、半身不隨の病者と華燭の典を擧ぐるものあり、何れも伉儷の快樂を味ふ能はずして破鏡の嘆を招ぐに至るなり。  
又男子にしても單に女性の容貌のみを選びて、自己の性質、體質、年齢と適應するや否やを考へざるは、其の結婚をして決して幸福ならしむるものにあらず、彼の容貌美はしき妻を持つて夫にして、不品行をなすも、妻が姦通するに至るも、多くは其背面に肉體の不調和より來る性慾の不足を伴ふに依るなり。

### 第五節 結婚と年齢

適當なる年齢に於いて結婚するは極めて緊要の事なり、然らば適當なる年齢とは果して幾

歳位を可とするやと云ふに、男子は二十一歳、女子は十八九歳より早からざるを適當とす。歐洲各國の結婚年齢にして最も若きは、英國の男子十四歳、女子十二歳、獨逸の男子二十歳、女子十六歳、露國の男子二十一歳、女子十九歳等なりとす。英國の甚だしき早婚は習慣より來れるものなるが、斯かる少年の女子が妊娠する時は骨盤が未熟なる爲めに、小兒の頭を潰し或は一生歩行し得ざるに至る事あり、又は下肢全く麻痺し或は大腸脱臼する事等早婚の弊實に怖るべきものあるを見る。

早婚の害は支那、印度等が最も善き例を示せり、即ち彼の國に於ける薄弱なる子孫、又痴兒の多き事柄は實に此の早婚の害を示せるものなり。

早婚の害あるが如く晩婚も亦害あり、人間は四十五歳より五十歳となれば、身體非常に衰へて充分なる生殖作用を行ふ事能はざるに至る、生殖作用は人生に於ては精神的愛情と一致せざるべからず、是れに依つて快樂を味ふ事を得るなり、完全に人生の快樂を求めんとするには、必ず双方の體質及び生殖器の健全なる事と、結婚の條件とせざるべからず。

以上述べし點より歸納する時は、結婚に適當する年齢は男子二十一歳、女子十八九歳より早からざるを可なりとし、男子二十五歳、女子二十歳位を以て最も適せりとなす。

### 第六節 結婚と貞操

文明人の結婚は必ず一夫一婦にして、夫婦間に於ては貞操を以て最も重大なる徳義となす、而して原始的結婚に於ける貞操の觀念は、元嫉妬の情より來れるものにして、女子に貞操を強要すれども男子に貞操なきは、女子の地位頗る低く恰も物品の如く、男子は女子を所有し玩弄するものと思惟したるが故に、女子が貞操を破る時は峻烈なる制裁ありしも、男子が數人或は數十人の女子に接するも、何等の制裁なかりしなり。

斯くの如く貞操の觀念は感情より來り、遂に今日の文明人の間に行はるゝ貞操に進化せるものにて、是れに對し從來の學者は科學に立脚して、夫婦間に貞操の

必要なる所以を充分明確に説く能はざりしが、著者は科學上より左の如き解釋を下せり、即ち最近著者が東京朝日新聞記者に談話し、同紙上に掲けたる記事（大正四年八月廿五日）を轉載せん。

### 男女貞操問題

從來男女の關係は、子を産む事に依つて始めて永久に離れ難い肉體的關係が出来るものと解せられて居た。所謂「子は夫婦のかすがひ」と云ふ、又「子までなしたる仲」と云ふやうな諺も、これから出て居る。夫婦の間に子の擧げられざる限りは、譬へ精神的に愛の關係が結ばれても、肉體的には特種な關係が成立しない。況や一時的の男女關係の如きは、精神的にも、肉體的にも何等の關係が成立するものではない。かう云ふのが、從來世間一般の理解であつた。

然るに一昨年（一九一三年）の十月、維也納の醫家ソルドスタイン及びエークレル二氏は動物

試験の結果、生殖行爲は男女の生殖素が女體の血液の中に入り、これに對する特殊の酵素を生ぜしめる、一種の生物學的反應を起さしめる事を發見した。此新事實は從來の世人の考へを根本的に改造して、單に一回の生殖行爲と雖も、男女間に肉體的關係が明かに成立する事を科學的に立證した。此醫學上の新發見は、獨り學問上のみならず、人生に對する好個の教訓を與へたものである。

抑ワルドクタイン氏等の發見は、アプデルハルデン氏の發見した妊婦に於る生物學的反應に基くものである、妊娠するや、胎兒の小部分と看做すべき胎盤絨毛の細胞が、母體の血液の中に入る爲め、其蛋白成分に對する特殊の防禦性酵素が母體内に生ずると云ふのが、アプデルハルデン氏の發見である。ワルドスタイン氏等の發見はこれに負ふ處が多い。

射出されし、生殖素が如何なるかと云ふ事を、モルモット、家兎等に就いて試験した時、交尾後早きは數時間、遅きも二十四時後には雌體の血液の中に精蟲に對



する特殊の防禦性酸酵素が現出する事を発見した。此試験の結果、精蟲は射出後直ちに女性の血管内に移行進入して化學的變化を起さしめる事が考へられるに至つた。

女子の血液内に此化學的變化を來すと云ふ事がやがて、女子が全然被動的のものである事を、明白に示して居る。女子が始めて異性に接した後、少しく時を経て、其身體及精神に著るしい變化を來すと云ふ事は、近時フランクホルツホルト氏も説いて居る。婦人が結婚後、其性質や癖まで、夫に似て來るやうな精神的變化はこれまで、單に心理上からの、解釋されて居たが、更に又女性の血液内に進入した男性成分の作用に負ふ所が少くない事が発見されて、この種の問題の理解の上に、新たなそして、有力な論據が投げ掛けられた。

性行はかくの如く血液中に特殊の化學的變化を生ずるものであるとすれば、女の貞操を嚴守すべきは勿論である。又男に取つても、かくの如き變化を起さしめ

た女に就いて、責任を持たねばならぬ事も、當然の義務である。

## 性慾と戀愛

### 第一節 性慾の美的發露

前にも述べし如く、戀愛とは男女兩性が有する性慾の盲動にして、即ち内在せる性慾と外圍の刺激と自然性の誘發等が一致して發作する時に、そこに美的發露として戀愛なるものが生ずる、性慾を自然性なる動物的のものとせずして、神聖に且つ理想的に慾求すれば、それは誠に美しくしきものにして、人間として最も高潔なる性慾なりと稱するを得べし。只青年男女が肉慾を満足せしめんが爲め、性慾を發露するならばそれは動物性なりと斷すべし、未開なる——殆ど動物に近き——野蠻人等は、最も露骨なる一種の戀愛をなすものなり、其れば腕力的にして、而かも強制的なり、然れども文明の人々は此戀愛が精神的に進化して、性慾は此

戀愛と云ふ美しき蔭にかくれ、容易に其の本態を顯はさず中には非常にデリケートなる戀愛を有し居るものありて、他より見れば頗る美しきものなりとす、其れ等は文明人の生活状態が濃りに複雑なるを以て、手取早く運ばれざるが故なりとす。何れにしても戀愛は、性慾の上に立脚したる所の精神的肉慾の美化なり、而して其美化の量に依つて、其れが野蠻人又は下等なる動物的の劣情となり、又は理想を立脚として行ふ所のものとなる、元來人間が性慾を意識して、性の感覺が開き來るならば、従つて其所に他を愛するの慾望起り來るものなりとす。

### 第二節 戀愛の肉的和精神的

戀愛の目的は要するに肉慾(性慾)の満足と、精神的の快樂とにあり。只精神的の快樂のみ追ふ戀愛なりせば、夫れは實に尊敬すべきものなれど、それは果して永久的のものなりや否や、場合に依りては獻身的に熱誠なる戀愛もなきにあらざれど、一旦其の熱情冷却する様な事

あれば、全く無關係のものとなる事あり。

年少者の戀愛に至つては多く全く精神的にして、蜜の如く甘き小説的な心を以て、異性より精神的の愛情を受けんとするものにて、何等肉體の上に於いて性慾の自覺を有し居らず故に失戀等の場合には非常に深刻なる悲哀を感じるものなり、而して夫れが又頗るローマンテイツクなるものなりとす。併し一度失戀が肉に切り入りたる時は其所に、離れ難き一つの連鎖を生じ、比較的共に樂しき生活を續くる事を得、精神的戀愛が順潮に進行して、遂に靈肉一致せる時に於いて、茲に光明的なる結婚となる、即ち眞の現實の生活と結合されて茲に確固不拔の戀愛を致す。

夢の如きローマンテイツクなる戀愛を以て、最も美しき神聖なる戀愛と解する人もあれど吾人は餘りに其の内容の薄弱なるを感ぜざるを得ず、然らば神聖なる眞に尊敬すべき戀愛とは何かと云ふに、夫れは道德の愛に築かれたる處の性慾たる事を要す。若し戀愛に高下を附するならば、斯くの如きものこそ最も高等なる者と云ふべけれ。

社會の人は往々神聖なる戀愛と云ふ事を誤解し居れる場合あり、肉と離れての戀愛ならば神聖なりと解釋し居れるが如きも、こは前にも云へるが如く、決して内容の充實したるものに非ず、眞に神聖なる戀愛と稱するものは、自覺せる戀愛ならざるべからず、道德的のものならざるべからず、又生活と交渉あるものならざるべからず。

### 第三節 戀愛に關する思想

現今に於ける戀愛に關する思想の一般を窺はん爲め、茲に其一二を例示して最後に吾人の批評を加へん。

(甲) 夫れ人生の意義は戀愛にあり、若し人生より戀愛を取り去らば、人生は砂を噛むが如き乾燥無味のものとなりて、恰も亞弗利加の砂漠中に生埋めされたるも同様なり。人類が往々戀愛の爲めに身を棄て、或は情死する事の少からぬは、人生の價値の上に重大の意味を有する證據なりとす。人間の最も怖るゝ處のものは、死より甚だしきはなし、然るに一旦思

## 性の智識の智識

ひを遂げられざる處より、戀無常を觀じて五十年の一生を放擲して聊も願みず、堯爾として死を悔ひざる如きは、決して他の動物に見る能はざる特徴なり。且つ人間の笑ひは全く戀無常の進化發達したるものにて、絶えて他の動物に見ざる所の特徴なりとす。

戀は勿論、失戀と否とを論ずる限りにはあらざれど、戀愛其物の眞價は、寧ろ失戀にあえが如し、戀焦れて悶へ死するに至らば、絶美の極、之れに過ぎずと信す。猶又戀愛の成就は實に社會道義の根本なるべしと思惟す、青春男女間に戀愛を生じて其の成就を見るや、社に家庭を作りて夫婦が成り立ち、夫婦は子女を設けて父母となり、子女は兄弟姉妹となる、而して子女は更に父母となり、父母は祖父母となり、其の愛情自から孝悌友愛の道義となりて實現せる。彼の

戀せずば人に心もなからまし

物の哀れはこれよりぞ知る

とは、戀愛が道義の根本なる事を詠めるなり。

自由戀愛説は、古來よりして稱へられたるが、近世に至りては、此の思想を以て社會組織の根本理想となし、歐米の社會に於いては、非常の速力を以て傳播せられつゝあり、蓋しこの思想は形式習慣等に拘泥せず、婦人を開放して純然たる愛の結合を求むる理想より生じたるものと思惟せらる。則ち戀愛は愛の實現にして又道義の根本なりとす、近代の思潮が果して戀愛は道義の根本と云ふまでに達し居れるや否や知らざれど、自身の信する處にては此點迄濫ぎ附けざるべからずと考へらる。此の見地よりして云へば、戀愛を解するは眼々の中に人生の意義をも、解したるものと云ふて不可なし。

(乙) 人類は一面に於て頗ぶる神聖なるものあると共に、他の一面に於ては必らずしも神聖となすに足らざるものあり、人は萬物の靈長なりと稱すれども、吾等の生命は僅か數十年に過ぎずして時々刻々其の刹那々に於てさへ墓場へ墓場へと近づき、吾等の此の温き、肉體も遂に彼の冷たき墓場の裡に眠らざるべからざる運命が矢の如く襲ひつゝあるにあらず、嗚呼人生僅か五十年、此の一時に等しき短かき生涯に於いて、吾等は吾等の本具する所を満

足せしめざれば人生は全く意義なきものとなり終るなり。

而して吾人の本具する所のものは何ぞ、真情の流露せる詩歌の上に、又文藝の上に、其の他有ゆる藝術の上に於て之れを説明しつゝあれば、其の本具の慾望を満足せしむる所に人生の幸福は存在するなり。

彼のアヤクレオンの如きは、吾人は本具の慾望を満足せしむる爲めに最大の努力をなすを以て人生の最大幸福なりとなせり。

尙ほ乙の説に就て之れを詳細に述ぶるには頗る紙数を要するものあり、本書は思想を論ずるを主としたるものにあらずれば、乙の説は茲に筆を擱く。

以上に現時の思想を代表する二個の例を挙げたれば、吾人は次節に於て是が批評を試べし

#### 第四節 戀愛思想の批評

前節に例示せる甲は戀愛を以て人生の目的と考へ、其の乙は性慾の満足、本能

の満足をもつて人生の最大幸福となり、何れも半面の眞理を有する事ながら、未だ以て吾人は是に首肯する事能はず、甲の思想に於ける戀愛は吾人の屢々云へる精神的戀愛に多く傾き、戀愛の眞價は寧ろ失戀にあり、失戀の爲めに狂熱し、戀ひ焦れて悶へ死するは絶美の極なりなど稱せるは、戀愛の變則なる結果より起れる心理状態を、脩飾し美化せるに過ぎず、吾人の謂ふ所の戀愛の眞價は決して、斯くの如きものにあらず。

又、乙の思想は原始野蠻の時代ならばいざ知らず、今日に於ては眞摯なる性慾學研究家の決して首肯する所に非ず、單に本能を満足せしめ、性慾を満足せしめて飽くなきに至らば、社會をして甚だしく無秩序ならしめ、又個人的にしては遂に自身を亡ぼすに至る、斯る誤まれる思想を矯正し、其の傳播を防止せんが爲めには、眞摯なる性慾學研究家は駒を陣頭に進めて是等の思想を懐けるものに挑戦せざるを得ず。

繰り返して云ふ、神聖なる戀愛は必ず自覺せる戀愛ならざるべからず、而して道德的ならざるべからず、又生活と交渉を有せざるべからず、然るに甲の思想に於ては必ずしも實際生活と交渉を有するや否や明かならず、又乙の思想に於ては正しき自覺を有せず、又道德的ならず實際生活とも何等の交渉を有せず、吾人は斯くの如き放縱なる性慾満足主義を以て正しき戀愛なりと見做す能はず。

### 第五節 戀愛と生活

両性の神聖なる戀愛は人間の生活の根本目的なり、此戀愛程人生に深刻なる感動を與ふるものはあらず、實際の戀にのみ男女の生活力が包含さるゝものにして眞に純なる人格を生むは此の正しき戀愛なりとす、即ち人類社會の發展の理想を成熟し、他に自己の満足の充實を現實するには、只眞の戀愛に依るの外なし。戀愛と云ふものは、極めて嚴肅なる重大なるものにして人生の生活の根源は凡

て茲に歸着するものとす、即ち戀愛中心の人生は換言すれば戀愛は人生なりとも云ひ得る、人生の一切の風俗、習慣、制度、文物は皆此の戀愛より表はれたるものなりとす。

### 第六節 愛情の性質及び其の進化

男女兩性の愛情盛んなるに至れば、啻だに性慾のみを以て満足せず、茲に一家を爲して團樂を樂しむ希望を生ずるに至るべし、吾人の所謂戀愛は實際生活と交渉を有するとは即ち是れなり。

ネツケ氏は愛情の本性、及び其の發達に關する事情を述べて曰く  
愛情の中にて最も早く生じたるものは、母の其の子に對する愛情なり。これ自然に本能として賦有せられたるものにして、最も確實に最も強盛なり。これに次ぐものは、子の其の母に對する愛情にして、是れ亦自然に本能として生じた

るものなり。

其の次に生じたるものは、父の其の子に對する愛情にして、夫婦の關係と父子の關係とが、確實になりたる時に起るなり故に此關係明らかならず、又其關係ありても後に絶えたる場合は、從つて其の愛情の消ゆること多し。是れによりて父の愛情は、本能に非ずして所有の愛なりと云ふ説あり。

それより兄弟、姉妹の愛情、夫婦の愛情、及び他人に對する愛情等生ずるなり。然れども是れ等の愛情は、本能に非ずして智的若しくは情的より發達したるものなり。之れを例ふれば、兄弟、姉妹の愛情は親子の愛情より、又夫婦の愛情は性慾より進化したるものなるが如し。之れを換言すれば、最初は唯だ性慾のみありて愛情なけれども、家庭を爲して夫婦同棲せる中に、次第に相愛する、情を生ずるなり故に眞の夫婦の愛情は、家族的關係に於て、最も遅く生ずるものと知るべしと。

彼のさして愛情濃厚ならずして、夫は年若く美しき妻あるに拘らず其妻を顧みず、柳暗花明の巷に屢々出沒して、折花攀柳を事とし、妻は幾度びか此の夫を棄て、歸らんかと悶えしものが、子女を擧ぐるに及びて夫婦間の愛情の濃厚となり夫は曩日の如く花柳の巷に出沒せざるに至る事あるは、予に對する愛情が夫婦間の愛情を結合する媒介をなせるものにして、ネツケ氏の述べたる所の理由に依るものなり。

### 病的性慾

#### 第一節 生物學的變化

病的性慾は性慾の一分科にして、不自然なる性慾なりとす。而して病的性慾に屬する問題の種類及び分類は、學者に依りて一様ならざれども、彼の有名なる精神病學者として病的性慾學の建設者たる、獨逸のクラフト、エービング氏の分類

は、最も完全なれども今便誼上顛倒的同性間性慾、色情狂、准色情狂に分つて説明すべし。

顛倒的同性間性慾とは、同性即ち男性と男性、又女性と女性との間に聯絡せらるゝ所の、一種の性的感情若しくは性交にして、病的性慾中最も神秘的なるものなり。

色情狂とは色慾の異常なるもの即ち色情に障礙を受けたる精神病者の總稱にして、其の名の如く色に狂ひて荒れ廻はるものあり或ひは沈鬱にして煩惱に苦しむものあり、或ひは屍體を姦し、動物と淫するもの、又は女子を傷つけ、或ひは虐殺して性慾を満足するもの等、種々あれども要するに病的にして正常ならざるを特徴とす、色情狂を前の同性間性慾に比すれば、頗る殺風景にして、何れの方面より見るも神秘的なる所なし。

色情狂にも亦(一)性的體部狂崇(二)性的庶物狂崇(三)サヂスムス、マソヒム

ス(四)陰部露出症(五)獸姦(六)屍姦(七)偶像姦(八)肖像姦等の種類あり。

准色情狂とは、純粹の色情狂にあらずして、生理的に近きもの、謂ひなり之れには知識の低き者、道德の薄弱なるもの、或ひは智徳尋常なるも單に克己心の乏しきが爲めに、罪惡を知りつゝ、犯すもの等あり。

第二節 同性間性慾

人の異性に對する感情即ち色情は、性慾の最も普通且つ自然なるものなれども茲に同性に對して快感を得んと欲する所の、甚だ不自然にして而かも性慾の本旨に反れる一種の感情を有するものあるは怪しむべき事なり。之れ謂はゆる同性間に於ける顛倒性慾、乃ち同性間性慾(又單に同性の愛とも云ふ)にして、平易に言へば男性にして他の男性を戀ひ、女性にして他の女性を慕ふ類のものこれなり是れに由りて同性間に於ける顛倒性慾は、其の關係する性乃ち男女に依りて、

(イ)男性間に行はるゝもの、即ち男性間顛倒性慾、(ロ)女性間に行はるゝもの、即ち女性間顛倒性慾の二種に分かつ事を得るなり。

抑も人の相愛し相慕ふは、親子兄弟を除きては、異性間の性慾にして男は女を女は男を交互に牽引するを原則とすれども、同性即ち男と男と、女と女と相對しては、普通一遍の交際の外に、色慾の起る事なきは言ふ迄もなし、普通同性に對して性慾の起らざるは、全く自然の然らしむる所に於て、其の理由と見るべきは(一)同性は珍らしからざること、(二)是れを以て生殖を遂ぐる能はざるものと思惟すること、の二點にして其珍らしからずと云ふ事情は(一)體格の同一なるがと、(二)同じ生殖器を有すること、を含みて其の間に異様な感情の起る事なきなり。之れを要するに同性關係を不自然とする天意に依りて、醜陋劣なる意味の感情を授けられたる結果なりと知るべし。  
右の理由に由りて考ふれば、同性間に行はるゝ性慾は顛倒にして、尋常にては



決して起ることなき筈のものなれども、實際は然らずして此の顛倒性慾の溺るゝもの案外多きは、事實の證するところなり。

### 第三節 女性間の同性の愛

男性が女性に戀するとか、女性が男子を愛すると云ふのは自然の現象なるが、之と違つて同性間に於いて愛情の交換をなし、異性を嫌忌する所の一種病的の人間あり、かう云ふ様な者は、屢々身心の健全なる所の人に於いても認めらるゝ、之も亦性慾倒錯症の一種なりとす。

此女性間に行はれたる所の同性の愛は、非常に古くより行はれて居たるなり。今左に一々例を擧げて説かん。

(イ)希臘の古代には、貴婦人社會の間に盛んに行はれたり、其代表者として、女詩人サツフォを擧げざるべからず。

(ロ)ローマ時代にも、引き續いて非常に盛に行はれたり。

(ハ)中世紀時代より今日に至つても、歐米諸國には依然として、貴婦人間に行はれたるものにて、歴史上にて有名なる婦人中、此同性の愛に耽つたるものは、ハインリツヒ第八世の妃カザリナ、ホーワルド及び露國の女帝カザリナ第二世等なりし。

(ニ)未開の野蠻人間にも行はれ居れり、彼英國にて有名なる學者にして性慾學者を兼ねたるヘブロッケリス氏の著書に據れば、南洋の婦人、南米の婦人等が盛に同性の愛に耽けると、又西印度の或地方には一生涯を通じて男子に接せざる女子ありて、一切女子の營む可き業を捨て、男子の行爲を眞似て其頭髮をも短かく截り、男子の如き風采をなして、家庭には一人の女を使ひ、之と暮して居る者あり、埃及も又盛にして、貴婦人間に於いて同性の情人を持たざるものは殆んどなし、支那にては官女が相共に夫婦になれる等の例あり。

(ホ)次は日本人なるが、昔は將軍の奥女中或ひは、尼寺の尼僧などの間には盛  
 に行はれ居れるものなれども、餘り社會が注意を拂ひ居らざりしを以つて、知ら  
 れざりし。然るに明治の時代になりてより女學校等より盛んに醜聞を洩らすに至  
 り、同性の愛に陥つたる女性の間には、夫婦同様なる關係を結び、其愛情の熱烈  
 なる事は異性に對すると同様なりとす。而して嫉妬の結果自分の情人を傷けると  
 か、又は殺すとか、自殺するとか、或は愛情其極に達すれば、共に心中する等  
 するものなり。

嘗て越後の海岸にて東京の或名家の令嬢同士が、情死して、非常に社會の耳目  
 を聳てさしたることあり。是は二人が餘り同性の愛に耽つたる爲め、家庭の迫害  
 が起つて二人の接近することを避けしめたるにより、二人共大に悲觀して、見苦  
 しき死體を海岸に漂はしたるものなり、あ、斯かる病的性慾の結果、淺猿しき死  
 體を白日に晒すに至れるかを思ひは、是に對する矯正策を講ずる事を教育家、宗

教育家等に對して望まざるを得ず。

其他女子が藝者狂ひをなし、其望みを達せんとして、數萬圓の金を盗んだ等云  
 ふ事實さへあり。

#### 第四節 同性の愛を好む婦人の型

未だ春機發動の時に至らざる幼年期即ち異性に對する愛情の未萌生せざる時、  
 常に親しく交際し居る同性の友人或ひは教師等に對して愛戀の情を催すことあれ  
 ども、心身共に健全に發育し來たれるものならば、漸次斯くの如き傾向消失して  
 遂には異性の戀を喜ぶに至る、遺傳性の神經病的素質を有し、又は既に精神状態  
 に異常あるものは、思春期に達しても尙同性に對する愛の、依然として有するも  
 の非常に多し、而して同性の愛のみに耽つて、異性に對する愛情のなき婦人は、  
 男子の如き顔貌をなし、而して精神も男子と同じ性質を持つて、かゝる婦人は多

くは飲酒喫煙を好むものに對して其言葉舉動共に女らしく優しき所なし、ギツシ  
 エ氏の實驗に依るに、或貴婦人が十六歳の時結婚し、其後六年を経て離婚となれ  
 るものあり、其婦人は體格頑固にして酒を好み煙草を喫し、男装して時に同性を  
 愛する傾向著しかりしと、併し月經は毎月正規に來朝し、生殖構造も通常のも  
 のなりし、而して鼻下には薄き粗毛を生じ居りし他は、身體の工合は女型を失な  
 はざりしと報告せられ居れり。

第五節 女同志の情死

近來新聞紙の傳ふる所に依れば、女同志の情死をなすもの頻々として遂に一時  
 の流行と見做さるゝに至れり、是れに關し中央新聞記者が著者の門を叩きて同性  
 間性慾に關する談話を求め、是れを大正四年八月二十二日の同紙上に掲載せるが  
 同性間性慾の參考として左に轉載すべし。

頻りに流行の兆ある

女同志の情死

高尚で愉快だと同性の

戀を謳ふ印度の詩人

此頃の様には女同志の情死の多い事は無い、之を耳にするのは殆んど毎月の有様で其の階級  
 が多く女學生、看護婦、女工などに限られて居るのは一寸面白い現象である  
 秘密にされる、同性間殊に女性間の性慾なるものは何れも近代的の産物でも何でも無く昔  
 から多く行はれて居たものだが、何故か男子間に於ける性慾にくらべて餘り重大視されな  
 かつた、其は女性間の性慾が、外觀上秘密を守るに易く且別段之に附隨した他の犯罪を構成  
 する事も無く又同じく色情に溺れるとしても之れが爲に累を男子との情交に及ぼす事が無  
 かつたので、自から社會に流す毒が少いとしてあつた、又女性間の性慾は男子の如く肉體

的で無くて言はゞ精神的なのが多い。併し精神的戀愛に満足して居る間は別に弊害も起らないが、此れを進めて色情的交際となると、忽ち其處に恐るべき嫉妬の情火を發するのである。同性間の愛情は何故に起るか、又其の愛情の頗る濃厚なるは何故なるか、夫れは茲に深く立ち入りたる説明を加へずとも讀者には略推察せらるゝならんと思はる、兎に角人間より愛情或ひは戀なるものを取り去れば人生は頗る寂寞なるものとなり、歳多の人類の美點の大半を失ふに至るであらう、人間は成熟すると共に此の愛情をある者との間に交換せんとするの念旺盛となるもので、其のある者とは第一に異性であるが、其の病的なるものに至つては同性間に於て愛情を交換して満足し、併も其の愛情が頗る熾烈に至るを常とする、又同性間の愛は常に病的に來るのみにあらずして、愛情を交換する異性を物色するに困難なる場合は、自然の衝動として其の鬱勃を漏らさんが爲めに自然に同性の愛をして熾烈ならしむるのである、彼の囚人殊に女囚の間に於て最も熾烈なる同性の愛に耽り、之が爲めに他の者との間に嫉妬の情火を發して、時に獄内に於いて傷害等の事件を發生する事も稀に見驗する所である。

相愛の證據 女性間の愛情が熱して來ると第一に手紙の書方が豔書の如くになつて、必要もないのに匿名にしたがる、寫眞を撮す場合が多くなる、髪、結方、髪飾り等を成る可く同じ様にする。女學生なら學校で工女ならば工場で逢ふのを無上の樂みとして、早く家を出る無暗と訪れて二人は公園や綠日に出歩く又何れの場合でも意味ありげな笑ひを交換する、話には常に長く相手の名を書籍に手帳に樂書して止まない。

閑な看護婦 女工は場主の虐待が導火となつて同愛に陥り斯落ち若くは情死を企つるに至る例が尠くないが、妙齡の春を徒に腐らして適當の配遇を得ざるに依り終に同性に依つて慰むる事となるのも澤山ある看護婦間に於ける同性の愛は、其看護婦會が繁忙だと従つて弊害は無いが閑散冗常に狭い座敷に閑居し一つ寢をする場合になると種々と風評が看護婦間に立つものであるとは某看護婦會長の談である、昔の御殿女中には斯様な奇怪事が盛に行はれたもので、今でも其遺風が残る華族の家庭には往々ある、歐洲ではホテルの女中に多いさうである又女店員にも昨今此傾向が見える様になつた、其點にゆくと娼妓には割合に多いも

ので、客無き夜を朋輩と轉寢などして圖らず動機を爲すらしい無いやうで有るは此娼婦間の相愛で百分比例を以て示すと日本は四十五、伯林は二十五、巴里は二十五と云ふ事になる。各自の道義心 女性間の情死には殉死的の情死が多い、義理合より犠牲となる者が少くない、意氣相投するのもある男女が不意に情死する事はあつても、同性間の情死は男でも女では皆合意と云つて差支ない支那が男色が盛だが女性間の戀愛は少く小説としても、林蘭香杏花天の二書は有名なものだが、他には餘り聞かぬ、氣候などの關係もあるのであらうが、印度は盛んで詩人は詩を作つて女性間の戀を激賞し『女同士の戀は高尚で愉快だ』と、迄謳歌して居る、近時各地に於ける女性間の情死なるものは、社會の進展に伴ふ極めて卑近なる一事實で然も同性は秘密が嚴守される丈に之を取締る事が甚だ困難で、寧ろ不可能と云つても宜い位である、即ち各自の道義心の發動を待つて根絶するより醫法はない。

第六節 男性間の愛

女性が同性の愛に耽ける如く、男性も又同性の愛に耽けるものあり、今一二例を擧げて述ぶることとせん。

(一) 歐米の人々

伽嘶の大家アンダーセンに頗る女性的で嫉妬心が深く、非常に同性を愛したるものありと。

又近代文學の流行兒の一人たる、オスカーワイルドも曾て同性戀愛に耽りし爲め、ロンドンに於いて數年間牢囚となれることあり。

十九世紀佛蘭西の詩人たる、プエルレーヌは青年詩人たるラマポーと同性の戀に陥り、曾て共に自耳義に旅行せる折、如何なる譯か激怒の結果、拳銃を揮ひし爲め二年間ブラッセルに禁錮されたる事實あり、其原因としては、ラムポーが、ペエルレーヌを嫌ひ初めたる爲めに、嫉妬を起しての事なりしならんと稱せられ居れり。

希臘の哲人プラントは或時シヤミーテスと呼ぶ青年の楚々たる容姿を一見せる時、遂に之を愛する情起り、非常に其美少年に愛戀したと言はれ居れるが、彼には肉體的關係なく、單に精神上の戀愛をなせるものなりと、今日プラトニツケラブと言ふ文字は、同性間の精神的戀愛にのみ用ひられて居れるも、此プラトニより起れる事なり。

ソクラテスも又ハーミテスと云ふ美少年を愛せるが遂に肉には關係せざりしかども、美しき肌を見て情火熱して、殆ど堪へ難き一種の肉慾の催し來れるを、漸く自己の修養に依つて制せりと云ふ。其他、文學者計でなく、政治家、軍人、帝王等も、同性の愛に耽りしもの多く、殊にローマ法王等其顯著なるものなり。

(二)吾國に於ける人々

古くに平安朝時代、僧侶の間に盛んに行はれたり、彼の空海の弟子眞雅僧都が在原業平の美貌に迷へる等のことは有名なる話ありとす。其れより平安朝時代よ

り源平時代に掛けて、貴人間に非常に流行したるものにて足利時代に至つては、武人の間に行はれたり、従の足利義滿が、其近習の容色美しきものを選び、眉を剃らせ白粉を粧はせ、齒を黒く染め等して頗る同性の愛に耽りたる如きも其の例にして、徳川時代に至つては愈々男色流行し、遂には男娼迄生ずるに至れり

### 第七節 極端なる同性の愛

同性間性慾の結果、女同志の情死をするものあるは既に説ける如くなるか、同性間同志の情死は單に女子のみにあらず、男同志にても情死せる例乏しからず、是等は同性間性慾の最も高潮に達せるものにして、其結果遂に自己の生命をも犠牲に供するに至れるなり。

「同性間の愛を好む女の型」に於ても述べたるが如く、此種の婦人は女性としてよりも、肉體、性格共寧ろ男性に近きものなり。同性間の愛を好む男子、亦其體

動、格體共女性に近く、概して髻少なく骨格纖弱にして乳房の如きは比較的大きく、殊に骨盤は男子としては餘りに廣く而も生殖器の發育宜しからず、而して同性間性慾の極端なるものに至つては、女子にありながら妻を娶りて一生暮せるものあり。此者は髻もあり總て男らしき様子をなし居たるが、解剖に見るに小さながらも子宮あり卵巢もありしを以て、初めて女なることを知り得たりと。

斯かる例は吾が國にても往々耳にする處にして、嘗つて二十年前某と稱する女賊ありしが、此女賊は年若き美人なりしにも拘らず、頭髮は勿論衣服より下駄に至るまで悉く男装をなし、湯に入るにも一度も女湯に入りたる事なし、されば人皆男とのみ思ひて怪しむものなかりしが、一日入浴中如何なる機會にや模造の陰莖脱離して牀上に落ちたれば、浴客は思はず噴き出し流石の女賊も赤面して逃げ出せるを、怪しと見たる刑事に取押へられ、茲に悪事の數々悉く發覺するに至れり。此の女賊の男装せるは、罪跡を晦まさんが爲めの手段よりも、寧ろ男装を

好む性質に出でたることは、其行動及び其の男性に對する色情冷淡にして、却つて男を嫌ひ妙齡の處女と、共同生活し居たる等に依つて知るを得べし。

又大正四年八月廿六日夕刊の「やまと新聞」に左の如き記事あり、

麴町區十二丁目〇番地の某(廿二)と云ふ男は幼少の時から女粧するに妙を得て四年前某請負師の外妾となる一ヶ月程で男子なる事露顯し其筋の厄介となつたが、去月中も他へ嫁入りする事となり支度金十五圓を請取り又も露顯して破談となり昨夜四谷荒木町で通行人の袖を引いてゐる所を押へられた。

何れも顛倒的同性間性慾の例として見るべし。

第八節 性的體部狂崇

性的體部狂崇とは異性の或る體部に就いて、性的感情を有するもの、謂にして女性の乳房、臀部、手、脛、足等は多くの場合に於いて狂崇の目的となるものなり

日本に於いては衣服の仕立工合の關係より、女性の手足は勿論脛も現はれ、夏時などは時として、内股や乳房までも見らるゝ事あるを以つて、日本人には體部狂崇者割合に少なきも、西洋には女性の白き手を見て色慾を満たすものさへあり、こは西洋にては常に手袋や靴下を用ひて、素手、素足は見る事稀なるを以つて、偶々之れを見る時は激しく精神を刺戟さるゝが故なり。是れと同一の理由に依つて或る監獄の一囚人が、女の長き髪の毛一本を大切に保存し居たる例あり、是れ即ち此の髪の毛にて女性を聯想し、而して性慾を満たし居たるなり。

體部狂崇の高まれるものには、脛に之れに觸るゝのみにては満足し得ざるに至る、彼の臀肉切りの如きは即ち體部狂崇の高まれるものなり。

### 第九節 性的庶物狂崇

性的庶物狂崇とは、異性の身體に着きたるものに對する狂崇にして、リボン、

櫛、簪、襦袢、半襟、手袋、手巾、時計、紙入、指環、扇、下駄、靴、洋傘其他の種々なる庶物が狂崇の目的となるなり。

庶物狂崇に就いて澤田順次郎氏の著書中より其の一例を擧げん。

某家の女中が奥さんから貰つたと云ふ紅い蹴出しを、大切に仕舞つて置いたが、或る土用の日に之れを裏の物干棹に懸けて置くと、何時の間にか紛失して影も形もないので、蒼くなつて居る所へ、隣家の小兒が来て、今怪しい男が何か赤い物を抱へて、裏口から出て行つたと告げたので、ソレと後を追ふて行くと、但ある空屋の中で、一人の男が紅裙を腰に巻いたり、頭に被つたりして居るので、直ぐ交番に訴へて取り押へて見ると、一種の色情狂で、女の襦袢や腰巻の類を見ると、手當り次第盗んで行つて、それを自分の體に着けて喜ぶのであつた。



## 第十節 半陰陽者

半陰陽者とは俗に「ふたなり」と稱し、生物學上の雌雄同體にして解剖的にも將た又精神的にも、兩性の意味を有するものなること勿論なり、即ち不完全にて男女兩性の生殖器を具備するが故に、彼れ等の色情は取りも直さず同性の色情に當たるなり、半陰陽者の色情は全く同性色情にして、之れを蚯蚓、蛭、蝸牛等の如き完全なる雌雄同體に徴すれば、同時に於いて男性ともなり又は女性ともなることを得るなり。

半陰陽者は古昔より在りしものにて、彼の羅馬の末葉カラカラ王時代の如き淫猥を極めたる頃の彫刻中にも、半陰陽者の大理石像多數あり、又中古の終(三十年戰爭前後)に出でたる數多の諷刺畫中にも、半陰陽者の關するもの頗る多し。之れを以つて觀れば斯るものを賞讃せる時代ありしのみならず、且又それが一時

性慾上勢力を占め居れる時代たりし事も判斷し得べし。

斯く半陰陽者は何時の時代にも在りて、不思議の現象とせられありしが、人間の半陰陽は一方に偏せる傾きありて、生殖器も一方に發達せるもの多きが故に、茲に男性的假半陰陽者ありて或る男と結婚したりと假定せんに、此の假定せんに此の半陰陽者は元來は女性なれども、外陰部は男性の發育をなせるものなるが故に、妻の任務に就きて夫婦の和合すべきは當然なれども、此の種のものには往々にして、其男性的發育をなしたる外陰部を利用して、他の女と關係することあり然る時は純然たる女性間性慾となりて、而かも顛倒性慾に近よれるものと謂ふを得るなり。

女性的假半陰陽、即ち本性は男子にして外陰部のみ、女性的發育をなしたるものも、他の男子と性交を結ぶ事無きにあらざるなり。

## 第十一節 サヂスミス

サヂスミスとは異性を虐待して性慾を満す色情狂なり、其の一例を擧ぐれば、徳川時代に記されたる物語の中に斯くの如き女あり、即ち二十七の年増盛りの美しくき女なりしが、此の女は世の中の男は皆己が膝下に跪かする事頗る容易なるものなりと信じ居れり、故に夜な夜な忍び來る男を冬の寒き日冷たき風の吹き入る縁側に素肌にして、腕を括つて朝迄放棄し置くとか、又美しき少年が木枯の吹く寒き夜忍び來たれるを始めは楽しく語り合ひ居りしが、何日の間にか、絹糸にて兩腕を括り、其上へ油の満たされた油皿に二本の燈心を點じたるまゝ、掌と掌との間に挟みて高く捧げしめ、彼女は斯くして男が寒さに耐ひ兼ね齒を喰しぱりつゝ、白い肌を震はして悶え苦しみ居るとか、又美少年の身動きさへなし得ずして、其の苦しき心は刻一刻と意識を失ひ堅く、嚙みしめたる唇の、微かに震

えて赤く血の滲みなどするを炬燵の上に片肘つきて、行燈の影より冷やかに若い男の悶へるさまを見やりながら、さも心地よけに片頬に微笑を浮べて、盃の數を重ねるを常とせり、此の女は一人の男娼を情人とし居たるが、何かの感情よりふと此男を殺して見んと思ひ、或る雪の寒き日に男は尋ねて來たり、やがて二人は楽しく歡樂の夢路を辿り居たれども、彼女の顔にはどこか殺氣が仄見え、彼女が嬉しく快き笑を漏らせる時は、今迄歡樂の光と芳烈なる酒の香に満ちた室は、一面に美しい血潮に染められて居たり、彼女は此の腥き鮮血を見て、快心の笑を漏らせり、是れ即ち性慾の病的異常にして、世の中には輕重ありと雖、此の種の女性に例に乏しからず。

フオイエルドツハ氏の著書によれば、或男は自分の關係した女を殺し、而して其の血液を啜り一片の肉を食つて、性慾の興奮を満足せしめたりと、又英國人にして裁判所の書記をなし居たる或る男が一日郊外散歩に出でしに、美しき少女

の遊べるを見て、急に性慾の興奮を來たし、遂に森林中に於いて其の慾望を満たし、尚飽き足らで少女を死に至らしめ、のみならず其死體を寸断して放棄せり、検事が臨検せる時人々は皆一見して戦慄を覺えたりと。

ロンブローゾー氏の記述中のヴェルゲニーと云ふ男は、交接の以前只女の頸部を手を捲き付けたるのみにて、既に劇しき性慾の興奮を感じ、其際早く射精し了れば、女子を死せしむる如き事はなかりしが、若し射精が遅かりし時は遂に女子を窒息死に到らしめしと云ふ、是等は皆異性を殺して其鮮血迹り出するを見、或は其の苦しみ悶へる状を見て、非常に快感を覺ゆるものにして、尙甚だしきは其暈き血潮を嘔り、或は其肉又は内臓を食し、又は陰部を扶り取る等、實に悲惨極まれる方法にて、非常なる快感を覺へ性慾を満足さすと、是れ皆一種のサヂスミスなりとす。

性 生 の 智 識

第十二節 マソヒスミス

マソヒスミスとはサヂームスの反對にして、異性より虐待せられて快感を味ふものなり。此の種の者はヒステリー性の婦人に多く、發作的に起るものにより、故意に其の夫に虐待さるゝ様に、換言すれば喧嘩を仕向けて打たれ躰られなどして喜ぶものを謂ふ。

性慾上の小兒體質と稱し居れり、身心は充分に發育して、大人なるに拘はらず只性慾のみが發育せずして、小兒の状態にあるものあり、此種のもものは女性に多くして、男子には極めて少なし、併し其多くは只性慾の發育のみが停止したるに過ぎずして、實際の缺乏症にはあらず。

而して實際の性慾缺乏は異性に對する感覺脱失とも稱すべきものにして今更に田中氏のベチーチネルより左に實例を擧げん。

東京の或る中流の生活をなして居る、家庭にSと云ふ美しい物ごしの優しい娘があつた、教育も高等女學校位は卒業して居るし、女一通りの事も知つて居た、然し何れかと云へば、厳格な家庭に育つた所謂深窓的な昔風の娘であつた、所が茲に帝大出身の某學士が、其楚楚たる姿と美貌とに戀愛の情を起し、遂には其思ひに堪へ兼ねて、其女を嫁に貰つた、所が始めは伉儷睦まじく、外の見目も羨しい程であつたが如何なる譯か、二三月の後離縁して了つた、其後娘は二回結婚したけれども、共に二ヶ月程で離縁された。

所が茲に獨身の或若き醫者が其れを聞いて、「離縁の原因を調査して見た、所が彼女の身心は共に健全で、品行に於いて何等云ふべきことはなく、家庭に於いては誠に善き妻であつた。

又其離縁した人が、共に其嫁を賞めて何等缺點なしと云ひつゝも、皆離縁して居る、青年醫師は遂に茲に職掌柄研究心と又一は好奇心とを伴ひ、結婚を

申込だ所が、娘はも早結婚の念を斷つて行くのを嫌つたが、醫師は手を替へ品を替へ、再三再四申込だ、先方も遂にやることにし、本人も一度行く氣になりして日ならず、結婚した、所が結婚後一ヶ月も経ずして、醫士から其原因を發見された、是れ即ち前記述べた所の一種の病的即ち性慾の缺乏したものであつた、茲に於いて薄倖の美人は又も破鏡の嘆を見たのである、彼女は是迄の経過を見ると、前述の通り性慾のみが發育しなかつた所の、精神的性慾上の小兒であると云ふことが分かる。

### 第十三節 陰部露出症

陰部露出症とは、異性の前にて陰部を露はし、而して性慾を満たす一種の色情狂なりとす、多くは白痴、癡愚の如き先天性の精神病者にあれども、時には白痴にあらざる精神病者に見ることあり、彼の悖德狂の中に發見することあり。

## 第十四節 獸姦及偶像姦

不自然なる性欲遂行も、迄に至つては野蠻と云はんか何と云はんか、吾人は之れを評するに其の言辭に苦しむものなり。

併し是れ等は概ね古代遊牧時代に行はれしもの、如く、今日にては文明人種の間に是等の事柄を耳にすること殆んどなしと云ふも可なり。

人間の性欲が如何なる程度にまで進み、而して其の極限即ち最上方と、最下方とに於いて如何なる所まで擴げられるかと云ふ事は、性欲問題中の難問題と云ふべきなり。蓋し人の性欲は人と人との間にのみありて、人を離れては性欲の生ずることなしと雖も、品性の下劣なる人の中には往々人間の外に動物、偶像等に依りて、情慾を満たさんと欲するものあり、これ倒錯症又は色慾の最も亢進したるものは、其対象者を人、特に異性と見立て、これを淫行することを好むものあり

## 第十五節 自瀆

人類は靈的に愛を求めんと欲する一面に於いて、斯くも淺ましき劣情を有するものあるを思へば實に意外に堪えざるなり、之れを以て論ずる時は性欲を満足せしむるに頗る次第あるものにして、此の種のものに至りては吾人は茲に説くを屑とせざる所なりとす。

偶像に對して性的逐情を漏らすもの、如きも、自然なる性的満足を得る能はざるものか、又倒錯症の者なりとす、而して又偶像を愛するに代へて肖像畫を抱いて愛するものあり、是等は何れも偶像なり肖像畫なりを生命ある人格者と假定するか、又はこれに對する倒錯より一種愛慕の情を注ぐに至るものなり、然れども常に少女か人形を好むとは違ひて熾烈なる情あるを見る。

自瀆は變態性欲と稱するを得ざれども、便宜上茲に述べし、自瀆は英語の所謂マスターベーションにして、獨逸にてはオナニーと稱す、オナニーは舊約全書

にある、ユダの子イスラエルの孫にしてオナニーと云へる者より來れりと云ふ。  
フロイド、モール、フリードユング諸氏の説に依れば、青年にして殆んど之れを  
行はざるものなしと。

青年期に於いては、異性に對する欲求頗る盛なる結果随つて自瀆行はれ、時と  
して配偶者を有する壯年者も之れを行ふ事あり。これ夫婦の合歡に倦厭を生じた  
場合にして、配偶を有せざる獨身者にありては常習的に耽るものあり。

又小兒にありても往々自瀆を行ふものあり、其行爲は最初無意味なれども、局  
部に於ける一種の快感を覺ゆるに至りて、常習的になるものなり。

自瀆的逐情の害は交接と同じく精力を消耗するものにして、殊に過度に是れを  
なすが故に一層烈しき害を及ぼし、且つ交接の如く相對的ならざるが故に生殖器  
を毀損するに至る、尙其の詳細は生殖器の疾病の部に述べべし。

## 性的特徴論

### 第一節 身體の成長

性的特徴とは男女兩性の表彰となる特異の性質なりとす。而して男女兩性の特  
異なる表彰とする所は、身體の成長、骨盤、頭部、腦等なりとす、以下逐次是れ  
に對して述べん。

男女兩性の身體成長の有様を見るに、女子は誕生當時は男子よりも軽く且つ身  
長も短かく、胸圍等も狭し。而して成長は男子よりも遅く、五歳より九歳又は十  
歳まで同じに成長するものとす。三十年以前迄は女子の發達時期が全體に於いて  
男子より劣れりと想像され居りたり、然るに一八九二年バウデイチ氏が約一萬四  
千人の男兒及び一萬一千の女兒の身長及び體重を観察したるに、其の結果春機發  
達期の發達中數年の間ヨーロッパ人に於いては、女が同年輩の男子よりも、身長

及び體重に於いて勝り居ることを發見したるなり。

英國に於いては十歳乃至十五歳の間は、女子は男子よりも早く成長す、十一歳半より十四歳半に於いて彼等は身長大に勝り、十二歳半より十五歳半の間においては體重に於いて勝る、女子に於いて成長の割合増す時も男子は減する所の傾向あり、而して女子は十六歳後に於いて、成長著るしく遅るゝものとす、廿歳頃には全然成長せざるなり、何れの國に於いても最も活潑に成長するは十三歳乃至十四歳なりとす。

是れに由つて見るに、女は男より早熟にして、又男より早期に於いて發達停止するものとなす、是れ等二個の事實の結果として女の身體の割合は小さき男子及び兒童の身體に近似するの傾きあり、此女の肉體に於ける豐饒なる若々しさは極めて根本的なる特徴となす。

## 第二節 骨盤

多くの下等民族にありては男女の骨盤著しく相異せざるものとす、例へば中央アフリカの數個の種族の女は、後方より見る時は殆んど男と區別なし。アラビアの女の骨盤は大にして擴張し居れど、ヨーロッパの能く發達したる女に見る如く豐圓なる丸味を有せず、人間が進化し來れるにつれ骨盤も漸次發達し來れるなり。

次ぎは骨盤と脊柱との關係なれど、之には種々なる身體の關係あるものとす。垂直の姿勢は進化と營養とに正比例し、水平の姿勢は其れと反比例をなす、即ち野蠻人は文明人種の如く直立せず、ドロネー氏に據れば錫蘭の土人は女子にありては男子よりも前方に彎曲をなす、ヨーロッパに於いても女が一般に體を眞直に立てざるなり、軀幹と頭とを前方に傾けて歩行す。

女子の身體は男子よりもより多く四足動物的の傾向を有す、其の以所は男子も女子も直立の姿勢をなすが爲めに生じ、或ひは強めらるゝ所の不健全なる状態が種々あるなり、のみならず女子は直立の姿勢を取るに依つて不利益を蒙る事多し直立の姿勢は男子の生殖器には差したる影響なけれども、女子の生殖器には重大なる影響を及ぼし母たるの働きには著しく妨害となるなり、四足動物にありては分娩は非常に容易なり、是れは骨盤が重大なる障害をなさざればなり、元來女子の骨盤は體を支持するに都合能き形と、分娩を容易ならしむるに都合よき形との中間を取りしものなり。直立の姿勢を採るに至つてより小供の頭は漸次大となりこれが爲めに分娩は更に困難なるの傾向を生ぜり、高等民族に於ける分娩の際の死亡率多きに至りたるは決して偶然にあらざるなり、同時に女子が其有機體全體に於いて、男子よりも進化の爲めに苦しむる跡が表現されて居るなり、男女の骨盤にありて人間に於けるほど著しき相違を示すものは他にはあらざるなり、將

來益々進化が進むに隨つて女子の骨盤は次第に擴大し發達し行くならん。

將來に於いて人間の肉性が殆んど消へ去りて、純粹なる理性にのみなるならんと稱する學者あり、彼等の稱する肉性とは性的情慾即ち性慾の謂なり、然し此の説には何等の根柢なし、劣等民族は性的行爲甚だ自由なれども、性的本能に餘り強烈のものにあらず、恐らくは高等なる人種、即ち大なる骨盤を有する人種は常に最も強き性的衝動を有する人種ならん。

子孫を遺し行くに最も適したる人間は、大なる骨盤を有する人間なり、骨盤は性慾の大なる中樞の坐なるが故に、骨盤の發達及び骨盤に於ける神經と血管との分佈は性慾の大なる高まりを惹起す。

### 第三節 頭部

パニキ氏はフロレンスに於いて兒童の頭蓋骨を調査したるに、六歳より男女の



相違表はれ始め、十二歳以前に於いて性的特徴の主なるものは、大概よく認めらるるに至りたり。

佛蘭西のブロカ、獨逸のシャーフハウゼン、伊太利のマシテガツサ、英國のターナー四氏の意見により、著しき數個の點を擧げんに、第一最も著しき男性的特徴たる眉の所の高さ、眉間の高さ男子には著しきも、女子は餘り著しからず、又女子は男子よりも前頭竇餘程小さし、第二は女子に於いて後頭の外部及び上部に於ける顛頂骨の瘤及び目の上の額の中途にある前頭の瘤が、小兒の際に著しかりしものが、大抵男子よりも著しく殘留しあるなり、第三凡ての筋肉突起は頭蓋骨の何れの部分も薄く且つ弱きを常とす。

此外女子の頭蓋骨の頂上が男子よりも扁平にして、眞直なる額に對してより著しき角度を保つをも亦一の特徴とす。

次ぎは顔面なるが、男子と女子とを比較するに女子の顔は、其大なる頭に比し

て男子より小さしと稱せらる、身長の發達と顔の發達とは或程度迄並行するものらしく、即ち春機發動期前に一時發達が鈍ること、春機發動期に於て一時女が割合に優ること、男の成長が女よりも長く續く事等は男女何れにもありとす。

女子の下顎は男子より發達すること少なく、眼窠割合に大なる部分を占む、又眼窠が餘程橢圓形をなして居り且つ高さも割合に高く、之れが爲め女子の顔は實際よりも割合に大きく見ゆ、女子の眼が男子の目より著しく大きく見ゆるなれど實際は然らず、男子に於ては目の上にある骨突起の爲めに男子の目が大ならざるが如く見ゆるなり。齒も亦文明の度の進むに従ひ大きさと數とは減じ行く傾向あり、尙口の大きさも随つて減じ行く、女子の下顎は割合に著しく小さし、而して智齒は女子にありては早く發生するものとなす、ワジト氏に依れば男子は平均二十三歳、女子は二十二歳なるが最も多しと。

第四節 頭蓋の容量

頭蓋の容量に就ての性的相違は近代に於いて大なる注意を拂はるゝに至れり、即ち近代に於いても古代に於いても、又野蠻人のものも文明人のものも頭蓋の容量は男子は女子に優れり、尤も頭蓋の容量は脳の大きさと比例すべきものにあらず。

脳の前頭部は高尚なる部分と見られ居たるものにして、男子に於いては餘程發達し居るならんと考へられたるなり。マヌーヴリエは前頭部の曲線は女の方が割合に大に、顛頂部の曲線も亦女は男よりも大なる事を發見したり。後頭部も亦割合に女子の方大なりと云ふ事はマヌーヴリエ氏及びワイスパツハ氏に依つて見出されたるなり。

然しながら形體上男女に優劣ありと云ふ事は、頭蓋骨の研究によつては何等確

かなる根柢を發見する事能はざるなり。

第五節 腦

歐羅巴人に於いては、腦の絶體重量が男子に於いて著しく大なる事疑なし、左に示すは種々なる國々の重なる國々の重なる學者が多數の腦を檢したる平均なりとす。

學者名	性別	グラム	差異
ワグネル	女男	一四一〇	一四八
フシゲ	女男	一四二四	一五二
プロカ	女男	一三六五	一五四
トピナル	女男	一三六二	一一〇
ビシヨフ	女男	一三六二	一四二

ボイド	男	1354	男	133
マクレーリエ	女	1353	女	128

歐羅巴人に於いては男子が女子よりも、絶対的大なる脳を有し居る事は明なり、女は體重の割合には幾分か大なる脳を有す、此事はバルシヤツプ、ティーデマン、サーナム等の諸學者に依り英國及び佛蘭西、獨逸にて確められたるなり。其の後ビシヨフは同様に女の體重と男子の體重とは、僅々八十三に對する百の割合なるに、腦の重量は女子九十に對し男子百の割合なる事を説けり。

### 性慾と内分泌

男子の睪丸及び女子の卵巢は、精蟲及び卵子を製造する臓器たるのみならず、一種の液を分泌して是れを血液中に移行せしむ、此の液を分泌するを内分泌と稱す、而して分泌さるゝ液は、通常身體中最も鋭敏なる又化學的に最も分解し易き成分を有する、神經細胞を刺戟するものなり。若し此の分泌無かりせば人間に性慾も愛情も起らず、女の女らしき體格、又男の男らしき體格も形成さるゝ能はざるべし。

斯くの如くなれば性慾の根本は、内分泌作用にして、外界の刺戟に依りて起るものも、畢竟は内分泌作用ありての後ちなり、何となれば内分泌作用起らざるときは如何なる手段も色慾を生ずることなければなり。

### 生殖器及泌尿器

#### 第一節 總論

生殖器の機能たるや生物の蕃殖と其種族の保存とを營むに在り、即ち内生殖器、外生殖器是れなり。

外生殖器は男女生殖器の交接及び生殖産物の排出を司る處の機關にして、内生殖器は生物の元たる種細胞を生じ且つ之をして發育せしむ。而して人類に於ける諸臓器は男女其區別なしと雖も生殖器に於ては全く其構造形狀、機能等著しく異なるものなり、故に此れを區別して記載すると共に、其の親密なる關係を有して離るべからざるは、泌尿器とす、況んや尿路のある部分は生殖管の重要部分と交渉を有し、ある部分は排尿の通路なると同時に生殖素の通たるに於てをや。こゝに於て吾人は生殖器を併せて泌尿器を詳論しよう。

(一)泌尿器 は一つの臓器にして、体内の老廢物たる小便を體外に排泄するの機能を有し、之を分類すれば凡そ四つに區別するを得る、即ち腎臓、膀胱、輸尿管尿道之なり、腎臓は小便を製造して之を輸尿管に因つて膀胱に送り、膀胱は又輸尿管が滴り落つる少量の小便を貯ふるの器にして、膀胱内の小便一定の量に達すれば、實に尿道を経て體外に送り出す、其で次章よりは先づ泌尿器の胎生的發育

より順次、腎臓輸尿管、膀胱、尿道の四器に於ける解剖より、其機能と尚排泄物たる尿の腎臓に於ける製造法と且其成分性質等に至る迄詳しく説こととせん。

(二)生殖器 に於ては男女大に其趣きを異にするのである、けれども其機能たる生物の蕃殖を營むと云ふことに就ては男女共に同一にして、即ち其目的は種族の保存を謀ると云ふに存する、而して之を大別すると交接器と蕃殖器の二部となす、其内交接器は男女が其目的たる蕃殖を營むに於て其媒介をなす所の器關にして、次ぎに蕃殖器は生物の種芽を産出し、且つ之を適當の處にて保存し養成するの器關なり、之を男女に區別して見るならば左の如し。

(一)男子生殖器

(a) 交接器、攝精腺、コーセル氏腺、陰莖。

(b) 蕃殖器、辜丸、副辜丸、輸精管、精蘆射精管。

(二)女子生殖器

- (a) 交採器、膻、陰唇、陰核、前庭、バルトリン氏腺。
- (b) 蕃殖器、卵巢、輸卵管、子宮。

### 泌尿器及び生殖器的の胎生的發育

#### 第一節 泌尿器發育

(一) 泌尿器 成熟せる泌尿器に於て發育經過に徴するに前腎、原腎、定腎となりて順次其機能を營む。

1 前腎 前腎は羊膜動物には、初等の胎兒器に過ぎざれども、其他の脊椎動物に於ては一時の胎兒腎(猶ほ羊膜動物に於けるウオルフ氏體の如く)にして、胎兒時に於て機能を營む。

2 原腎 原腎は羊膜動物に於ては胎兒の尿分泌器である、家兎は第九日に發生するもので外胚葉の細胞よりなる所の管あり。名けてウオルフ氏管と云ふ、是尿分泌腺なり。

3 定腎 定腎は所謂腎管となりて、ウオルフ氏管より此管口の直上に突出す、其上端は分岐して數多の小管となり、此小管終に迂曲して、其末端恰度有莖の護膜囊に等しき物となり、此囊自ら陷凹して、血管此腔内に進入して圍包せらる。又此小管は即ち細尿管となり、腎管の分岐せざる上部は腎盂となり、之より下方の部は泌尿生殖管に開口して輸尿管となり、其他膀胱は囊の初部より生ず。

### 生殖器の發育

#### 第一節 内生殖器の發育

中胚葉中に於いてウオルフ氏體の前内方に長莖の圓體を生ず、之を胚腸と云ふ。初めは男女共に同一なり、此時を稱して兩性期と云ふ。其他ウオルフ氏管に併行して一管を形成し、下方に走行して泌尿生殖管に開口す。之をミュレル氏管又は生殖管と云ふ。

一 男性 ウオルフ氏體より細管胚腸基内に進入す。此管は卷ち細精管と成り、ウオルフ氏管

ミュレル氏管は喇叭管となり、其下會合端は子宮となる。左に男女を別けて説かん。

は輸精管及び精囊となる。

ミュレル氏管は、多分消滅して僅かに最大の一部のみ残る、之より攝護腺質を生ず。ウオルフ氏第三ヶ月には毘毛を具へたる副睾丸となる。原腎の爾他のものは縮して消滅し二三の分離したる管は辜丸の迷走管となる。

二女性 女性に在つては、原腎の諸管大概消滅して、僅かに内側に毘毛を具ふる管を残す、副卵巣と云ふ。ウオルフ氏管も又消滅す。

二ツのミュレル氏管の下端は相癒合し、其癒合したる腔内に膈及び子宮を形成す、其上部に於ける游離部は喇叭管となる。

### 第二節 外生殖器の發育

外生殖器は最初男女の區別を分ち難けれど、第四週頃には肛門部に總排泄孔と稱する一孔を現はす。肛門及び尿管共に是れに通ず、孔の兩側大に丘隆す、即ち皮膚丘隆と云ふ。次

で第三ヶ月の半頃尿管と腸管との間に會陰部を生じて、總排泄管孔並に二個に分る。男女の區別漸く付く。

一男子 男子に在ては、第四ヶ月中に龜頭を生じ、第六ヶ月に於て包皮を形成し、皮膚丘隆縫際に於て癒合して陰囊を形成す。

二女子 小なる生殖結節は陰核となり、其構の邊緣は小陰唇となり、皮膚丘隆は依然残つて大陰唇となる。泌尿生殖管は短に止まりて膈前庭となる。

## 泌尿器

### 第一節 總論

泌尿器は排尿の器關にして、二つの腎臟、副腎、輸尿管及び一つの膀胱と尿道よりなる。尿道の外は皆腹腔内にあり、而して尿道は體外にあり。其機能として腎臟は尿を製造し、其尿は輸尿管を経て膀胱に集り一定の量に達すれば、膀胱

膨満し排尿を訴ふるに至る、遂に尿は尿道を経て体外に排出さる。

### 第二節 腎 臟

腎臟は尿を分泌する腺にして左右二個あり、此二個共に固有膜に依つて被覆せらる。

形状は平なる蠶豆の様で、色は赤褐色を呈す。

所在は左右二個共に腹腔内に於て、上方二個の腰椎に向つて、方形腰筋の前部にあり。

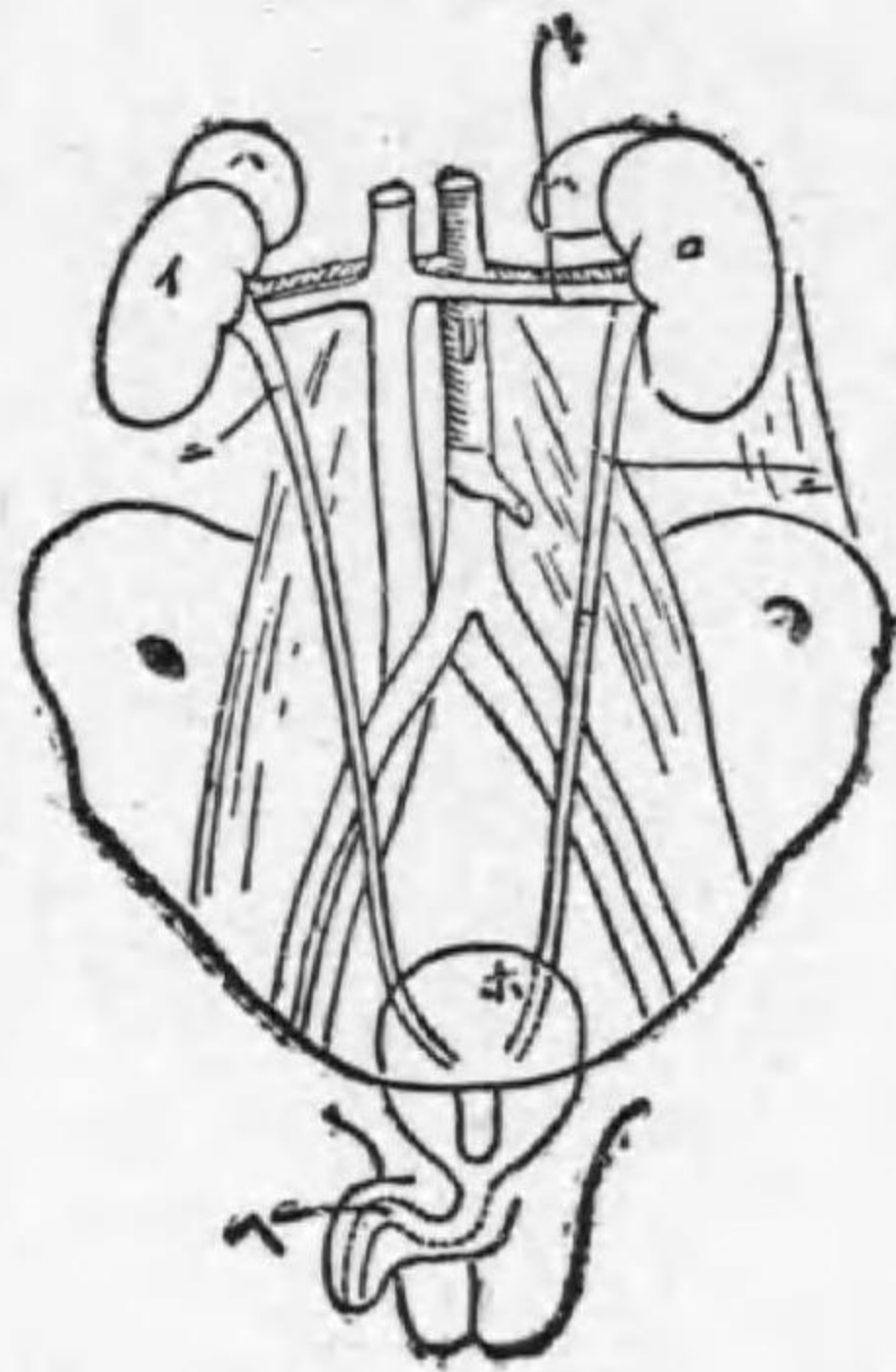
各部の状態は、前面に少し凹凸あり。

後面は極平にして外縁は少し凹凸あり。内縁(内側)は凹く陥る、茲を稱して腎門と云ふ。是には直に腎臟内部の腎竇に交通す、茲に即ち輸尿管及び動脈、靜脈が出入して居る。

腎臟を縦に斷つて見ると、強い質から成る所の皮質と云ふものと、髓質と云ふものとの二つよりなる。

(一)皮質 腎臟の表面にして、血管及びボーマン氏囊と云ふものを含む此ボーマン氏囊は細尿管に連する、其断面は黄赤色を呈す。

第一圖



イ、右腎  
ロ、左腎  
ハ、副腎  
ニ、輸尿管  
ホ、膀胱  
ヘ、尿道  
ト、腎動靜脈

(二)髓質 是れは腎臟の深部にして、茲は細尿管が集束する處である。其断面は灰白色を呈し、基底の皮質に向ふ所の大略十四五

個の圓錐體を見る、之をマルピキー氏圓錐體といふ。  
(三)血管と神經

**イ腎動脈** 是には腹部の動脈幹から來つて、腎門に入て數枝となり、圓錐體の基底に達す。又本動脈は更に澤山に分岐して腎の表面を循るものと、ボーマン氏囊中で、毬の様になつてさうして囊中を出づ。是れを輪出管と云ふ。囊より出でたる血管は又分岐して、皮質の細血管網を作つて髓質の網に入り、そしてから葉間靜脈に連合するのである。

**ロ腎靜脈** 腎靜脈となるには、腎臟表面の星形靜脈及び皮質の靜脈網を集めて即ち葉間靜脈と云ふを作り、其れから圓錐體の基底に達し、茲で互に吻合して、不等の靜脈弓を造り、漸次大管となり腎竇に至り、又結合して即ち腎臟脈と成る。

**(E) 交感神經** 此神經は腎臟に於て叢を作り、動脈に沿ふて來る。

**(F) 腎臟の機能** 腎臟の作用は血液と共に、流れ來りし組織間の老廢物たる、所謂尿小便の粗製品をボーマン氏囊に於て濾過し、囊内に水と鹽分とを滲透し、又細尿管上皮は尿の特別な成分を管内に分泌し、而して尿は細尿管内を流下し

追々腎臟内に集り、是より輸尿管に流れ出す。是れを稱して尿分泌機能と云ふ

**(G) 尿 (小便)**

**(一) 尿量** 尿量は成年男子は二十四時間に千乃至千五百立方仙迷、又女子にありては九百乃至千二百立方仙迷位である。夜中二時から四時の間は最少量、午前は最多量、午後二時乃至四時には第二の最多量になる。

**(イ) 尿量の減少** 之は多量の發汗、下痢、煩渴、多量の無窒素食餌、全身血壓の沈降、多量の出血、腎組織の諸病、亞トロピン、莫兒比尼等の藥物毒等は總て尿量を減少せしむるものである。然れども尿量未だ四百乃至五百立方仙迷は生理的である。

**(ロ) 尿量の増加** 全動脈系又は腎動脈系の血壓亢進、多くの飲料を取りたる場合、皮膚寒冷に逢ふて血管の收縮、多量の可溶性物(尿素鹽類糖)等の尿中排泄多量の含窒素食餌、其れから實岐多利斯、アルコール、含炭酸飲料等、以上列記



したるものは總て尿量増加の原因である。

(ハ)尿の比重は平均一、〇一五乃至一、〇二五なり、水を多く飲みたる後は最も低くして一、〇〇二なり、多量の發汗及煩渴後は最も高くして一、〇四〇に至る。

(ニ)尿色 尿中の水分の多少に因て淡濃の度を異にす。稀薄の尿は淡黄色を呈し、急發多尿症の尿は全く透明にして水の如し。而して濃厚の尿は殊に多く食物を取りたる後に、排泄するものにして暗黄色乃至帶褐赤色を呈す。

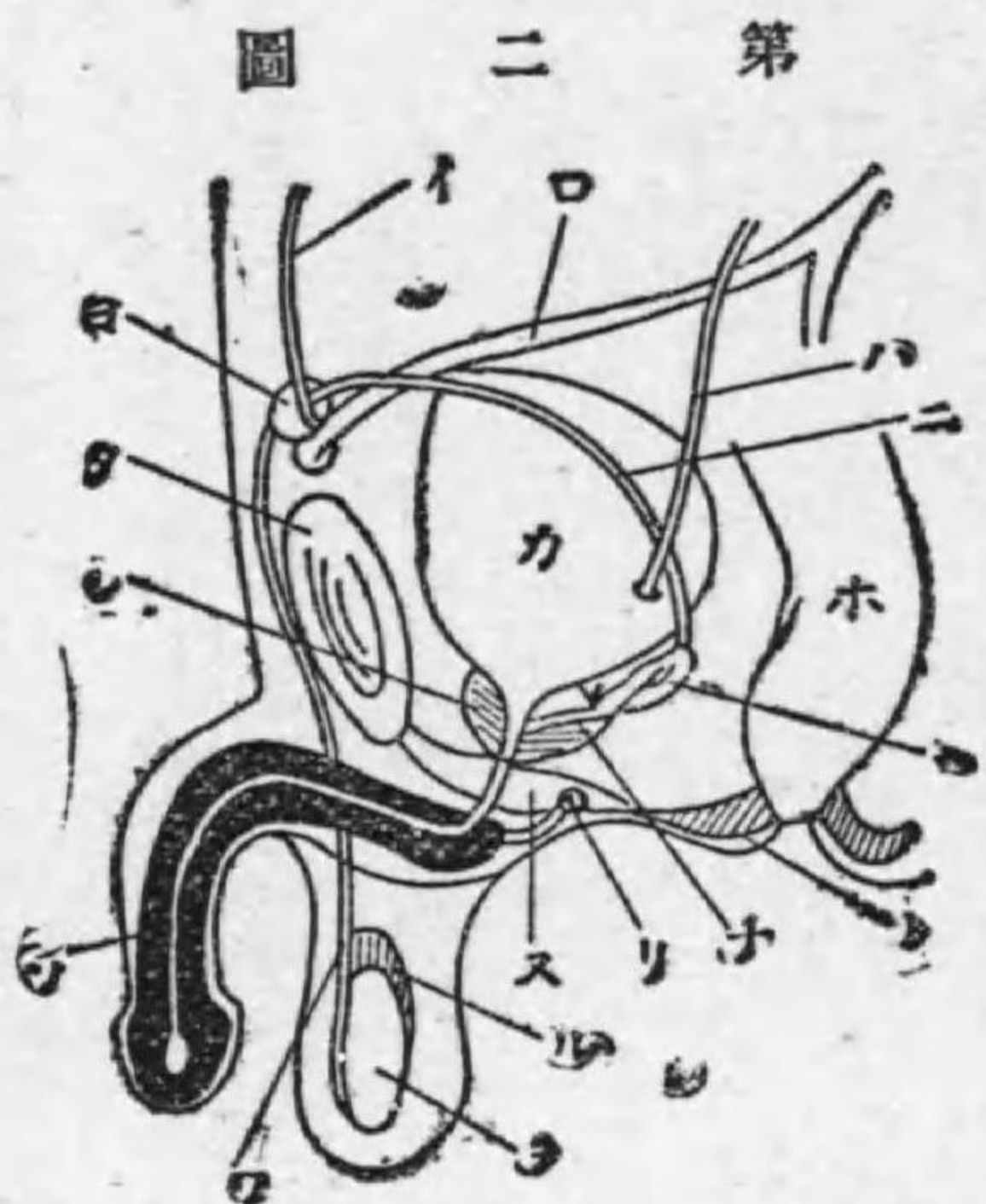
(ホ)尿臭 尿は鹹性の苦味を帶び、一種の香竄臭を有す。

(ヘ)尿の反應 常尿は酸性を反應す。

(ト)尿の成分 有機物としては尿素、尿酸、馬尿酸、酸性尿酸那篤留母、酸性尿酸アンモニウム、クレアチニン、キサントリン、鹽基尿酸、尿酸インヂカン、フェノール、クレゾール、焦性阿仙藥素、スカトール、硫酸化加留謨、琥珀酸、

乳酸、葡萄糖等なり

(b)無機物 食鹽、磷酸、硫酸、硅酸、硝酸、アンモニア、鐵、過酸化水素等なり。



- イ、下腹壁動脈
- ロ、外腸骨動脈
- ハ、輸尿管
- ニ、輸尿管
- ホ、直腸
- ヘ、精囊
- ト、會陰筋
- チ、射精管
- リ、コルム氏腺
- ヌ、三角靱帶
- ル、副辜丸
- ヲ、輸精管
- カ、膀胱
- ヨ、内鼠蹊輪
- タ、耻骨
- レ、攝護腺
- ソ、尿道

(チ)尿の自然變化

普通の尿を冷所に貯ふる時は屢屢先づ酸類を醸生す、之を酸性尿酸酵と

云ふ。此酸酵は特殊の酸酵細菌の發生に原因す。又尿を久しく放置すれば安護尼亞酸酵に移る、温と細菌の發生は是に關係す。

### 第三節 輸尿管の構造及び機能

輸尿管は腎臓と膀胱とを連絡する所の扁平の膜管である。腎臓と同じく左右二個にして此二個共に腎臓より出でて、膀胱の後下部に開口す。本管の上端は少し複雑にして、之を區別するならば左の三つに分たる。

イ小腎蓋 乳頭を包める所の多くの小囊を稱して小腎蓋と云ふ。

ロ大腎蓋 是れ小腎蓋の集合したる所の二三の大囊である。

ハ腎盂 大腎蓋の連合したるものであつて、此部は大に膨れ、而して追々狭小となり腎門を出でて、遂に管となり膀胱に通ずるものである。

輸尿管の機能 腎臓内に於て間断なく製造せらるる所の尿は、高壓の腎中より低壓の輸尿管内に流下す。尙輸尿管壁の筋の蠕動様運動は、尿の膀胱内に至るを補助す。其尿量は四十五秒時毎に二三滴である。

### 第四節 膀胱の解剖及び其機能

(一)所在 小骨盤内にありて腹膜に覆はれ、耻骨軟骨接合と直腸の間に在る、然し女子は子宮と耻骨軟骨接合の間に在るのである。

(二)形状及び各部の状態 稍々卵圓形を呈し、上方は尖りて中膀胱靱帯を附着す。下部は扁平にして大なり、茲を底と云ふ。其前下部は狹隘にして直に尿道に移行す。後面は直に直腸に接触す。又内面は滑澤にして三角形の局部を見る、是を稱して膀胱三角と云ふ。輸尿管は兩側共に茲に開口す。

(三)膀胱の機能 膀胱は尿を貯蓄する所の膜囊である。膀胱の底部には膀胱括約筋及び利尿筋と稱する筋ありて、常に膀胱より尿道に移行する部、即ち頸部(茲にも括約筋あり)に於て此所の筋と共に括約して開かざるなり。

然し膀胱一度尿を充盈して體外に排出せんとするや、先づ脊髄中樞の反射作用

に依り、利尿筋刺戟せられ、次で膀胱内に獨立してある收縮神經の興奮により膀胱は收縮を始む。次に膀胱括約筋及び尿道括約筋は弛緩し、然して尿は膀胱内高壓により、低壓の部の尿道に向つて流下するのである。

### 膀胱の破裂 (醫學博士富田忠太郎報告)

淋病患者は注意せよ

第一例 四十歳の勞働者にして十年前淋疾に罹りし事あり、煉火倉庫倒潰の際俯臥の位置に轉倒し墜落せる棟木を以て薦骨を強く撲たれ、數分時の後に診察せしに中等度の振盪症あり、右鼠蹠上部に激甚なる疼痛あり、電法を施し安靜を命じ、夜カテーテル送入により中度の尿道狭窄を認め、少量の血性尿を濯せり、翌日膀胱破裂の診断を下し手術準備中死亡せり。

第二例 六十歳の男子壯年時淋疾に罹り、數年來排尿困難を覺え、一年來殊に長時を要す

### 性の智識

一日晩食後、突然數回の嘔吐を起し、數分時の後に至り、排泄困難甚だしく下腹部一般に膨滿し、尿は僅かに滴瀝狀に出するのみ。二日の後檢するに著名なる腹膜炎を呈す、カテーテルを送入するに尿道狭窄あり、膀胱内に於るカテーテル廻轉遊動狭窄症にして自由ならず、少量の尿と血液とを漏らす、膀胱破裂に因する腹膜炎と診し、第三日腹腔を開き檢せると膨滿せる腸係の爲め膀胱破裂部を見出すを得ず、人工肛門造設腹内タンポを施し術を終りしも其夜死亡す。

第三例 四十五歳の男子嘗て淋病に罹り尿道狭窄にて苦しみしが、一日突然尿閉を起し、下腹部に穿刺排尿を企てられしも十分排出せず、尿意頻數腹部緊滿を來たし、來院せり、尿道狭窄の爲めカテーテルを送入するを得ず、依て探膿針を以て下腹を刺し暗褐色の尿一五〇〇立方 糞を泄らし、直ちに外尿道切開を施せしも、豫期に反し力量の陳舊血液を得たるのみ、其の後下腹の膨滿は稍消退し、術後一般症狀緩解せしも再び他膿性腹膜炎症狀を呈し、開腹の結果膀胱頂の前面に二指を通じ得べき破裂孔を認め、開放處置を旋こせるも

術後三十日にして死亡せり。

以上三例は何れも膀胱全層の破裂にして、第一例は膀胱壁多少孱弱なる状態にありし者外症の爲め破裂せる者、第二例は膀胱壁の變化あるに際し嘔吐遊動の爲め膀胱内壓急に増進し、破裂を來せる者にして、第三例は膀胱壁弛緩擴張し諸種の變性を來せる爲め僅微の誘因により破裂を促したる者ならん。(中央醫學雜誌百六十九號)

### 第五節 尿道の解剖及び其機能

#### 第一 男子の尿道

男子の尿道は膀胱底より起り、陰莖全體に通じて、其前端に開口する所の管である。其狀は稍々S狀の尿管にして、是れを區別すると三つに分けられる。

(一) 攝護腺部 此部に於ては尿道は攝護腺に取り捲れ頗る膨大す、是れ即ち尿道始部なり。其内面に於て縦に位する所の紡錘狀の隆起あり、稱して精阜と云ふ、

即ち粘膜の縦襞なり。而して其後端は延長し、又前端も延長す、是れを精阜繫帶と云ふ。其上頂に一孔あり、攝護腺竇と云ふ、深く腺質内に至る。其兩側に射精管の開口あり、而して精阜基底の周圍に最も幽微なる數孔を見る、是れ即ち攝護腺の排泄口なり。

(二) 膜様部 膜様部と云ふのは、攝護腺の尖端から尿道球部に至る部分に於て最も狭小の部分にして、恥骨弓下にあり尿道三角軟帶を穿通す。

(三) 海綿體部 此部尿道線體の後端より、全徑を穿通す。其後端は稍々球狀に膨大し、茲にコーベル氏腺の排泄管口を見る。而して龜頭の部位は更に縦徑に擴張す、是れを舟狀窩と云ふ。遂に龜頭の尖端に開口す、即ち尿道口是れなり。

(四) 尿道の機能 尿道は泌尿器としては膀胱よりの尿の流下して、體外に排泄せらる時の道となり。又生殖器としては交接の器となり、及び精液の通路となる。

#### 第二 女子の尿道

女子の尿道は頗る短かくして、膀胱の尖端より耻骨軟骨接合の下の方を経て前庭の間にあり。形状少し弓形を帯ぶ、而して女子の尿道は全く排尿の器關にして、生殖とは何の關係なし。然れども膣の畸形の者にありて、交接不能の者は尿道を以て常に交接を行ふ者あり。斯の如き尿道は膣と疑はしき事あり。

### 生殖器

#### (一) 男子生殖器

##### 第一節 概論

男子生殖器は、殆んど體外に位置し、其の最も緊要なる睪丸すら體外にあり。然れども女子生殖器と同じく、交接の用を爲すものと、蕃殖の任に當るものとの二種に區別するものなり。今左に之を記載すべし。

睪丸は精蟲を造る器官にして、輸精管は之れを精囊中に輸送する職を司る、攝護腺は白色の精液を分泌して精蟲の運動を促し、且つ活潑ならしむ。射精管は精液を尿道に射出する管にして、以上の器官に依りて始めて、精液は陰莖内部の尿道より搏動的に射出せらるるものとす、之れを射精と云ふ。

##### 第二節 蕃殖器と交接器

此れ既に總論中に論じたるるところにして、陰莖は交接器に屬し、其の他は蕃殖器に隸するものなり。陰莖の内部に通ずる尿道は、放尿と射精との兩作用を兼ねるを以つて、之れを泌尿射精管と名くるものあり。

又陰囊は既に説きたるが如く、女子の大陰唇に相當する所のものにして、或る半陰陽に於ては、之れを女子の大陰唇の如くに使用するものあり。且つ外生殖器としては發生したる點は、交接器に屬すべきものゝ如しと雖も、その睪丸を包みて

之れと離るべからざる關係あるを以て、蕃殖器と見做べし。蕃殖器にして、體外に位するものは、睪丸、陰囊及び輸精管の一部にして、其の他は體内にあり。之れを分類すれば次ぎの如し。

甲、蕃殖器	機能	數	位置
一、睪丸	精液を造る所	左右一對	體外
二、陰囊	睪丸を包む皮	左右一對	體外
三、輸精管	精液を睪丸より精囊に送る管	左右一對	一部は體外 一部は體内
四、精囊	精液を貯藏する所	左右一對	體内
五、攝護腺	液を造る所	左右一對	體内
六、コーペル氏腺	液を送る	左右一對	體内
七、射精管	精囊より尿道に精液を送る管	左右一對	體内

一名外生殖器と云ふ  
一名内生殖器と云ふ

乙、交接器

陰莖

一個 体外

第一節 陰阜

男子の陰阜は脂肪層薄きを以て、女子の陰阜の如く、隆起せず。陰毛の發生は、春季發動期と一致し、其毛は最初は軟かにして粗なれども、成長するに従ひ、漸次に硬く且つ、濃くなること、女子と同じ。  
陰毛の形狀、發生の場所等は、後章に詳述すべし。

第二節 陰莖(外生殖器)

(イ) 陰莖の形と大きさと構造  
陰莖は圓柱形にして、陰部に於て陰囊の上部にあり。陰莖の内部は、主として

海綿様の組織より成り、内部に膀胱より通つる尿道ありて、尿を排泄し、精液を射出し排出する機能を營む。海綿體はこれを三分に分つ、即ち尿道海綿體及び、左右の陰莖海綿體是れなり。而して前者は尿道の末端に在り、後者は陰莖の柱をなす。

(一〇) 陰莖の構造

第一 陰莖の皮膚(包皮)

陰莖の皮膚は陰阜及び、陰囊の膚膚に連続し、陰莖の根部より頸に至るの間は單に之れを被包すれども、頸に至れば、陰莖を離れて皺襞を造り、龜頭を抱擁す。之れを包皮と云ふ。包皮は春氣發動期になれば、龜頭より退き龜頭を露出するものなるも、人に由り包皮の剝脱せむものあり。此れを包莖と云ふ。

(一一) 包莖の害

包皮は、包皮の長きに過ぎるなり、又龜頭の小さき爲めに來るあり。此れ等は、梅毒、淋

病に罹り易く、且つ一旦罹りたるものは、治し難し。加之、生殖器機能障害(快感減少)を來し、陰莖發育の不良なるもの多し。

(一二) 包莖手術

包莖手術は、整形手術なるを以つて、其の技術功妙なるを要す。簡單にして、何人も施術し得と雖ども、若し其の技術拙なる時は、外形を損し、且つ其の機能を妨げ、かくて一生の不幸を招くに至る。所謂角を矯めんとして、牛を殺すが如し。予の屢々目撃する所なり。著者の手術せるもの、全治まで平均十日間を要せり。該手術は局部麻醉にて全く無痛に施術し得て何等苦痛なし。

(一三) 陰莖皮膚の構造

陰莖體にありては、皮膚は頗る薄くして、脂肪を缺き根部を除く外、毛を有せず。然も此部の皮膚は、頗る異動し易く、又伸び易し。其の色は暗黒色なり。然れども包皮口に至れば、皮膚は其の性質を變じて、粘膜に類似し柔かにして菲薄となり

紅色を帯びる。  
 又龜頭の尖端の下面より始まり、正中線に於て、包皮及び陰莖の下面に沿ひ、尙ほ陰莖を通じて、暗色の縫合あり。之を縫線と云ふ。

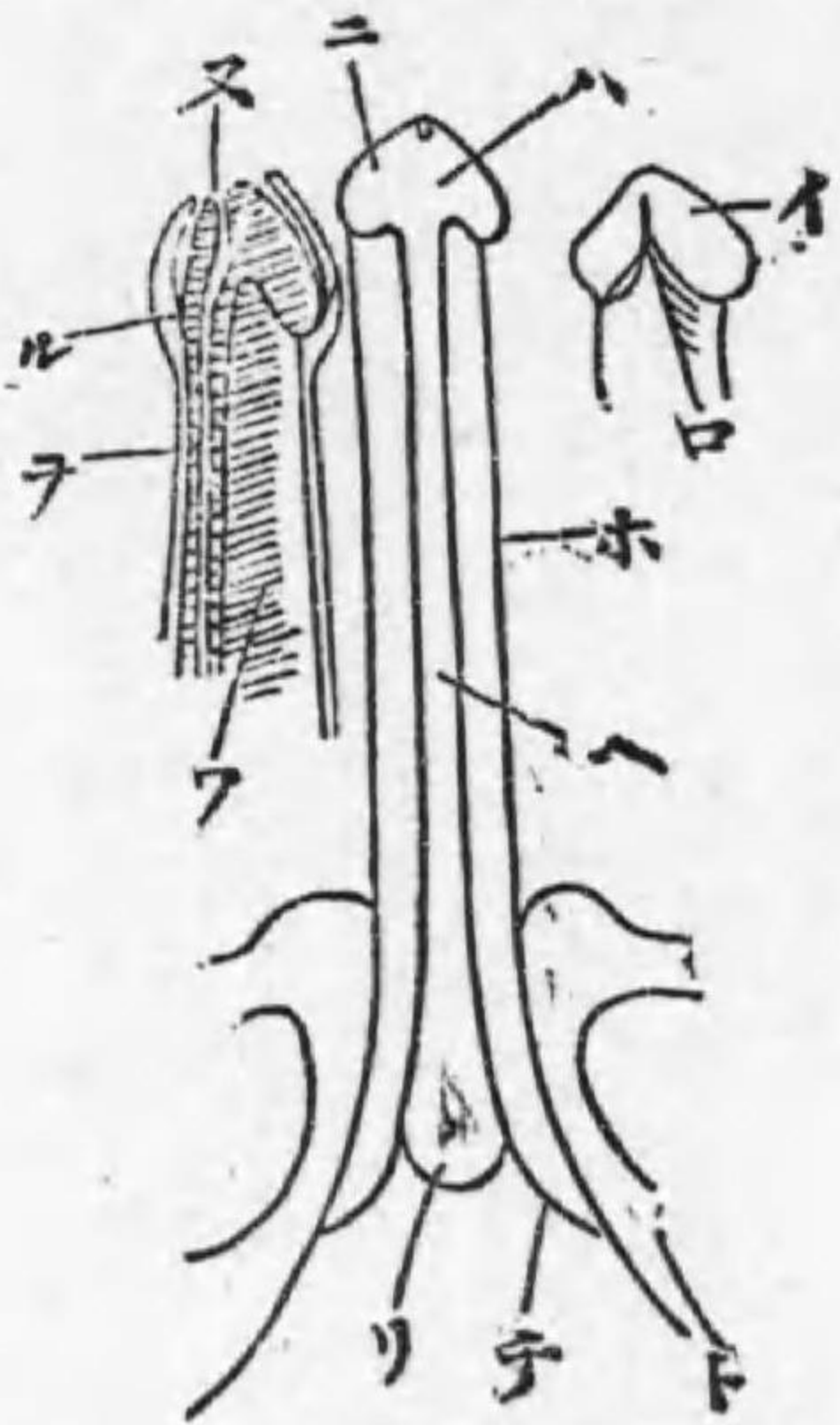
(ト) 陰莖の脂垢

龜頭頸及び龜頭冠の周圍及び包皮の内葉には、形状大小種々の汗腺あり。之れを包皮腺(又はタイソン氏腺)と云ふ。此の腺の分泌物はカスの成分なり。カスの主成分は主として、相對せる上皮面の細胞が、剝離せるものよりなる。龜頭の前面は腺缺乏す。  
 陰莖皮膚の皮下組織は寛鬆にして、附近の皮下組織及び陰囊肉様膜と連続する。皮下組織の内面には、陰莖筋膜と稱する纖維膜ありて、陰莖の三つの海綿體を包束す。

(チ) 尿道海綿體

尿道海綿體は、尿道を圍擁するものにして、陰莖海綿體の下に有り、前端大に膨大す。之れを龜頭と云ふ。

第三圖  
 陰莖及尿道



イ、口頭帶  
 ロ、龜頭  
 ニ、尿道口  
 ホ、陰莖海綿體  
 ヘ、恥骨  
 ト、尿道球  
 チ、尿道海綿體  
 リ、尿道  
 ニ、尿道口  
 ハ、包皮  
 ニ、尿道口  
 ハ、包皮  
 ニ、尿道口  
 ハ、包皮

(リ) 陰莖海綿體

後端を尿道球と稱す。尿道三角靱帯の前部に觸接す。

陰莖脚と稱す。狹小にして恥骨弓に密着す。前端は鈍にして、僅かに分裂し、龜頭を受容す。

(ヌ) 陰莖の區分

此れは左右二個にして、中部は互に附着し、後部(根の方)は分裂す。之れを



陰莖を左の數部に分つ。

陰莖根 陰莖の附着點を云ふ。耻骨の前面に附着す。

陰莖體 根と龜頭との間を云ふ。其の上と下の面は扁平にして左右兩側は鈍圓

形なり、其の上面は最も廣し、此の面を陰莖背と名く。

龜頭 陰莖の末端にして膨大す、龜頭は少しく上下に壓平せられ、其の末端

には裂溝あり。尿道の外口にして、特に尿道外口と言ふ。

龜頭頸 龜頭と體との界の絞縮部を云ふ。その前方の隆起を龜頭冠と云ふ。龜

頭の後(下)面の、境界線は斜に下方に向ふて走り、正中線に位する處

の皮膚の皺襞に終る。此の皺襞を繫帶と云ふ。

(ル) 陰莖の大小

醫學博士田中友治君が本邦人男子二百四十二名に就て測定せる結果左の如し。

年 齡 16—20 21—25 26—30 31—35 36—40 41—45 46—50 51—70 平均

年齢平均	18歳8ヶ月	23歳4ヶ月	27歳8ヶ月	32歳2ヶ月	37歳7ヶ月	43歳	48歳	61歳5ヶ月
人 數	19	91	75	29	18	4	2	4
陰莖長	7.3 <sup>cm</sup>	8.43	8.6	8.5	8.1	8.97	9.6	9.5
陰莖周圍	7.96	8.1	8.3	8.0	7.4	8.7	9.1	8.9
龜頭數	2.3	2.6	2.7	2.7	2.5	2.95	2.5	3.1
龜頭周圍	7.5	8.3	8.4	8.4	8.4	8.3	8.8	9.3
								8.55

一 仙米突は三分三厘を云ふ。故に更に本邦曲尺に換算し、平均を示せば。

陰莖の長さ 二寸八分四四六

陰莖の周圍 二寸七分二九一

龜頭の長さ 八分九厘〇一

龜頭の周圍 二寸八分二五一

(ヲ) 陰莖の機能

以上述べたる所に依りて、讀者は陰莖の構造と、作用とを會得し得たるなるべし。

更に茲に作用を述べれば、

(甲) 陰莖は交接器關にして、又

(乙) 膀胱尿の排泄管なり。

此兩様にして乙の用の爲めには尿道を併へて尿の排泄をなすものにして、尿道は前後の兩部に分たれ、前部尿道は即ち陰莖海綿體を貫くものとして其の末端即ち球部にして、後部尿道、攝護腺部、膜様部に分つ。

(7) 陰莖勃起及び勃起の太さ

陰莖の勃起とは、陰莖の特異なる構造即ち海綿體に、血液の充實するに由つて、陰莖は六倍大となり、且つ硬固の度を増せるものなり。これには淫慾亢進の爲めに起るものと、全く然らざるものとあり。而して又、淫慾に關するものにも、中樞性のものと、末梢性のものと區別あり。

色情淫慾に關係無くして、勃起するものは、何等腦の中樞にも亦全く關係を有せざるもの

にして、尿意を催せる時、蛋、虱、蚊等の爲めに刺されて、痒痒を覺ゆる時、其の他局部に外部より何等かにて刺戟したる等の際か、又は無意識に勃起を來すものにて、彼の孩兒が睡眠中(布片の接觸もなく、何等刺戟の存せしとは見えざるに)自ら勃起を致せるが如きは好適例にして、従つて此の場合の勃起は、其の程度も自ら低く、須臾にして萎縮するに至るものにして、淫慾の熾なる年齢といへども、コーペル氏腺の分泌物だも見ざるなり。

(カ) 淫慾、勃起と腦の關係

淫慾亢進に關するものは、全く生殖機關、殊に生殖腺の活動によりて、催進せらるるものにて、生殖器關が、其の勢力の充實せる爲め刺戟を發し、此の刺戟が腦髓に達して、茲に始めて淫慾を起すは、是れ最も純正なる作用にして、今茲に説かんと欲する、陰莖勃起は、即ち、此の種なり。

(ヨ) 我國人の春機發動期

我が國に於ける、男子の春機發動期は、約十五乃至十八歳なり。(子の實見せるは十三年に

して既に房事を解したる少年あり、又既に年齒三十を過ぎて、嘗て色情の發せざりし實例あれども、是れ皆破格にして、引例とするに足らず。若し各地方及び各種の階級を通じて、確實なる統計を擧げなば、我國男子の發情期は、平均十六歳にして、此の機に至れば、睪丸の細精管内壁に存する精液細胞は、初めて機能を起して精液を製造し、以つて射精時の用に供せんが爲に、精囊内に蓄積せらるゝに至るべし。此の時に當りては、相貌及び聲音の上にも、一大變化を來し、何人の眼にも春機發動を見得らるゝに至るものとす。

(タ) 腦中樞と勃起神經及生殖腺の機能

前述せる如く、一度春機發動せる以後の男子は、生殖腺の機能に依り、情慾を誘起せらるるは普通のことにして、獨り生殖線の機能が、腦に傳達して、陰莖の勃起を來たすのみならず、五官器を始めとして其の他身體各部の刺激に因りて、情慾の念を起す、此の念は腦の中樞に傳達し、腦の中樞より再び道を轉じて、生殖器に下り、茲に生殖器各部の興奮を起して陰莖勃起を來たすものとす。

性の智識

(レ) 春畫、小説、淫猥なる談話、臭ひ、觸覺等と

等性慾との關係

例へば彼の羞耻を感じる場合に突如として顔面潮紅すると同じく、精神の感動は頗る其の傳達迅速にして且つ著大なるものなるが故に、談話、小説、繪畫等に於ても亦頗る性慾を刺激するものあるを以て、斯くの如き刺激を與ふる談話、小説、繪畫等は之れを話題に上せ或ひは之れを耽讀し、或ひは之れを目睹するは餘り宜敷き事にあらず、殊に思慮未だ定まらざる青年子女に於ては其の害恐るべきものあり。又之れ等に依つて刺激さるゝのみにあらず、時に又接觸、臭ひ、其他に依つても刺激さるる事決して稀なりとはせず。

(リ) 催春劑

此の他血中に混じ、血液循環に伴ひて腦に至り、其の働きを誘起するものあり、催春藥、杜淫劑の如きものゝ即ち之れなり。

(此の種の薬劑には直接局部に用ゆるものあり。)

(ツ) 陰莖勃起の理由

陰莖の血液循環は、網の目の如く相吻合せる、纖維様弾力性の滑平筋より成る。此の網の目の中を、陰莖深部動脈並にその分枝が通り、遂に深部静脈及び陰莖背静脈となりて、腹の方に流れ歸へるものなり。

此の網の目を造れる、滑平筋纖維が弛むために、網の目は大きくなり、従つて網の中を通れる血管は大きくなり、血が流れ込むを以て、勃起するものなり。

此の網の目を弛まするものは、神経なり。此の神経を勃起神経と云ふ。臀部神経叢及び骨盤神経叢を造りながら、陰莖海綿體に分佈るものなり。一度忽然として、血液の流入するや、此の處の静脈の分枝を壓迫し爲めに、血液の還流を妨げ、其の結果として、陰莖に血が溜り、硬直を起す。之れに共同作用をなすべきものは、横紋筋纖維の收縮即ち、陰莖根を壓迫し、遂に陰莖を勃起せしむ。坐骨海面體筋並に、尿道球を壓迫する球海綿體筋及び深部

静脈を閉づる會陰横筋等にて、特に終りの二筋は血液還流を制止するを助く。

第三節 陰莖の種々なる形状

陰莖の形状は動物に依つて同じからず、各々其女性を相適合すべからしむ。而して甚だ奇なるものあり。例へば猫の如く陰莖は刺を以て覆はれ、交尾の際、牝に大なる苦痛を與ふるなり。又は犬の如く、その構造上より交尾の時間を甚だ長からしむるものなり。鳥類の陽具は發育未然の状況なるを以て、適當に交尾と稱すべき、交尾を行ふこと能はず、只精液を陰具の中に送りこむことを得るのみ。人類に於ても、往々尋常の發育の外に出でしものあり。加之、構造の特別なるものあり。例へば空胴體の内部化骨して、陰莖體の中央に歴々と軟骨の存するが如きあり。

稀れには陰莖の二個あるもの、或は寧ろ陰莖の兩部に、分れたるものあり。此の場合に於ては、一方の陰莖のみ尿道を存し、他の一方には之れを存せず。然れども二者均しく勃起す